



ユーザーズガイド セットアップ編



セットアップ編 目次

第1章 はじめに

- [1] はじめに 1-1-1
- [2] 必要ソフトウェアのインストール方法 1-2-1

第2章 スタンドアロンセットアップ

- [1] セットアップ前の注意点 2-1-1
- [2] セットアップ方法 2-2-1
- [3] セットアップの結果 2-3-1
- [4] 削除方法 2-4-1

第3章 LANPACKセットアップ

- [1] セットアップの流れ 3-1-1
- [2] サーバーセットアップ 3-2-1
- [3] クライアントセットアップ 3-3-1
- [4] 削除方法 3-4-1

ご注意

当社では、お客様の声に答えるべくプログラムの改正を続けております。それに伴い、操作上の改良のため、マニュアルの表記と実際の画面操作方法が異なることがあります。この場合には、実際の画面・操作方法を優先させていただきます。

第1章 はじめに 目次

[1]	はじめに	1-1-1
[2]	必要ソフトウェアのインストール方法	1-2-1

[1] - 1 はじめに

この度は、当社製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用に際しては、マニュアルに記載されている操作方法・注意事項をご確認ください。

当社製品を末永くご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

《必要システム環境》 (1) スタンドアロン版

OS	Windows 10、Windows 8.1、Windows 7 (Service Pack 1 以降以降) ※各日本語 OS の 32 ビット版 (x86) または 64 ビット版 (x64) ※ WindowsRT には対応していません。
本体 (対応機種)	・プロセッサ インテル Pentium 4 3GHz 以上 (推奨: インテル Core2 Duo 2GHz 以上) または同等の互換プロセッサ ・メモリ 1GB 以上 (推奨 2GB 以上)
データベース	SQL Server 2014(Service Pack1 以降) ※ SQL Server 2014 の 32 ビット版 (X86) に対応しています。 ※ 1 データベース領域として、最大 10GB まで使用できます。
必要なソフトウェア	Windows Installer4.5.2 以降、 ※上記のソフトウェアがセットアップされていない場合は、当システムを正常にセットアップできません。 ※当製品のプログラムDVD内に、Windows Installer4.5.2が収録されています。 セットアップされていない場合は、ご利用ください。
ハードディスク	1.5GB 以上必要 (データは除く)
ディスクドライブ	DVD-ROM ドライブ必須
解像度	横 1024 × 縦 768 以上を推奨
周辺機器	上記 OS に対応した、本体に接続可能なディスプレイ・マウス・キーボード・プリンター・日本語変換システム
*プリンター < 領収証発行 > < 手形発行 > < 管理帳票印刷 >	上記 OS で使用可能なレーザープリンター、インクジェットプリンター 上記 OS で使用可能なレーザープリンター、ドットプリンター (単票印刷のみ) インクジェットプリンター 上記 OS で使用可能なレーザープリンター ※詳細は 1-1-3 をご参照ください。

[1] - 1 はじめに

«必要システム環境» (2)LANPACK 版

	サーバー用コンピューター	クライアント用コンピューター
OS	Windows Server 2012 R2 Windows Server 2012 Windows Server 2008 R2 (Service Pack 1以降) Windows Server 2008 (Service Pack 2以降) ※各日本語 OS の 32 ビット版 (x86) または 64 ビット版 (x64)	Windows 10、Windows 8.1、 Windows 7(Service Pack 1 以降以降) ※日本語 OS の 32 ビット版 (x86) または 64 ビット版 (x64) ※ WindowsRT には対応しておりません。
本体 (対応機種)	・プロセッサ インテル Core2 Duo 2GHz以上 (推奨: インテル Xeon 5300 番台以上) または 同等の互換プロセッサ ・メモリ 1.5GB 以上 (推奨:4GB以上)	・プロセッサ インテル Pentium4 3GHz 以上 (推奨: インテル Core2 Duo 2GHz 以上) または同等の互換プロセッサ ・メモリ 1GB 以上 (推奨 2GB 以上)
データベース	SQL Server 2014(Service Pack1 以降) ※ SQL Server 2014の 64 ビット版 (x64)、32 ビット版 (x86) に対応して います。 ※対応エディションは、Enterprise、Standard です。 ※ SQL Server 2014(Service Pack1) を使用される場合は、SQL Server 2014 (Service Pack1) 用の「累積的な更新プログラムパッケージ 2(CU2)」を適用 する必要があります。	
必要なソフトウェア	.NET FrameWork 4.5.2、.NET FrameWork 3.5 (Service Pack 1) ※上記のソフトウェアがセットアップされていない場合は、当システムを正常 にセットアップできません。 ※ .NET FrameWork 3.5 (Service Pack 1) は、SQL Server 2014 をインストー ルするために必要です。 ※当製品のプログラムDVD内に、Windows Installer4.5、.NET FrameWork 3.5 (Service Pack 1) が収録されています。 セットアップされていない場合は、ご利用ください。 ※ Windows Server 2012 R2、Windows Server 2012 において、. NET FrameWork3.5をセットアップするには、インターネット接続環境が 必要です。	
ハードディスク	1.5GB 以上必要 (データは除く)	クライアントプログラム 300MB 以上
ディスクドライブ	DVD-ROM ドライブ必須	
解像度	横 1024 ×縦 768 以上を推奨	
周辺機器	上記 OS に対応した、本体に接続可能なディスプレイ・マウス・キーボード・プ リンター・日本語変換システム	

[1] - 1 はじめに

(3) 注意事項

※プリンターについて

[領収証発行]

- * レーザプリンター、インクジェットプリンターいずれもプリンタドライバでユーザー定義サイズが指定可能なプリンター

[手形発行]

- * レーザプリンター、ドットプリンターいずれもプリンタドライバでユーザー定義サイズが指定可能なプリンター
- * ドットプリンターは単票印刷が可能なプリンター（手形発行の連帳印刷は対応しておりません。）

[管理帳票]

- * レーザプリンター、インクジェットプリンター

【Windows 10、Windows 8.1 注意事項】

※マルチタッチ対応ディスプレイ上での、タッチ操作によるスクロール・ズームには、対応していません。

その他注意事項！

- * 快適にご利用いただくために、より高スペックの CPU を搭載したコンピューター、並びにより多くのメモリ搭載をおすすめします。
- * 当製品には、上記の OS は含まれません。
- * SQL Server 及び当社アプリケーション使用領域は、圧縮フォルダでの運用をサポートしておりません。
- * セットアップは、管理者グループのメンバーで行う必要があります。
- * スタンバイモード・休止モード・スリープモードには対応しておりません。
処理中に、Windows がスタンバイモード・休止モード・スリープモードに移行すると、エラーが発生する場合があります。
Windows がスタンバイモード・休止モード・スリープモードに移行する前に、当製品を終了してください。
- * 当製品には Windows 8.1/Windows 8/Windows 7/Windows Vista は含まれていません。
- * withSQL 製品のみ「SQL Server 2014」が同梱されます。
以下の点にご注意ください。
 - ・ DVD に含まれている SQL Server は当社製品上だけで使用できます。
 - ・ お客様は、新規にアプリケーション、データベース、テーブルを追加できません。
ただし、既存のテーブルに抽出条件や集計などを実行する SQL Server ManagementStudio などのツール類は使用できます。
 - ・ 16 コアを超えるサーバーでのご使用はできません。
 - ・ 当システムの SQL Server に関するサポートは、弊社が提供させていただきます。

※記載された内容及び製品の仕様は改良のため、予告なく変更する場合があります。

[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

(1) 必要ソフトウェアの有効化

Windows 8以降のOSの場合、またサーバーOSがWindows 2008 R2以降の場合、「.NET Framework 3.5」を有効にする必要があります。無効の場合は、設定を有効に変更してください。

◆ .NET Framework 3.5の有効化 手順

<Windows 8.1、Windows 8の場合>

1. コントロールパネルの選択 [設定]-[コントロールパネル]を選択します。



※カーソルを画面右上または右下の外に出すと画面右側にいくつかのマークが表示されます。その中の歯車のマーク「設定」をクリックすると、コントロールパネルへのアクセスメニューが表示されます。

2. プログラムと機能の選択

コントロールパネルの「プログラムのアンインストール」を選択します。



↑ *表示方法 カテゴリ

※表示方法が「大きいアイコン」「小さいアイコン」の場合は、「プログラムと機能」

[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

3. Windows の機能の有効化または無効化の選択

プログラムと機能画面の Windows の機能の有効化または無効化」を選択します。

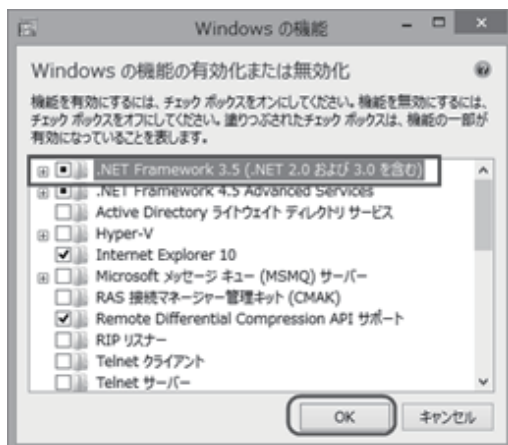


4. Windows の機能

Windows の機能画面が開きます。

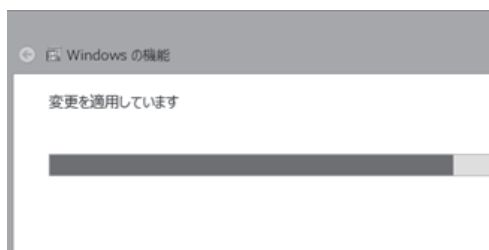


「.NET Framework 3.5 (.NET2.0 および 3.0 含む)」のチェックボックス (☑) をクリックしオンにします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

「OK」をクリックすると、変更が適用されます。



5. 変更完了

完了のメッセージが表示されたら、「閉じる」ボタンをクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

◆ .NET Framework 3.5 の有効化 手順

<Windows Server 2008 R2 以降の場合 >

※画面事例は Windows Server 2012 R2 です。

サーバー OS により詳細手順が異なりますので、ご注意ください。

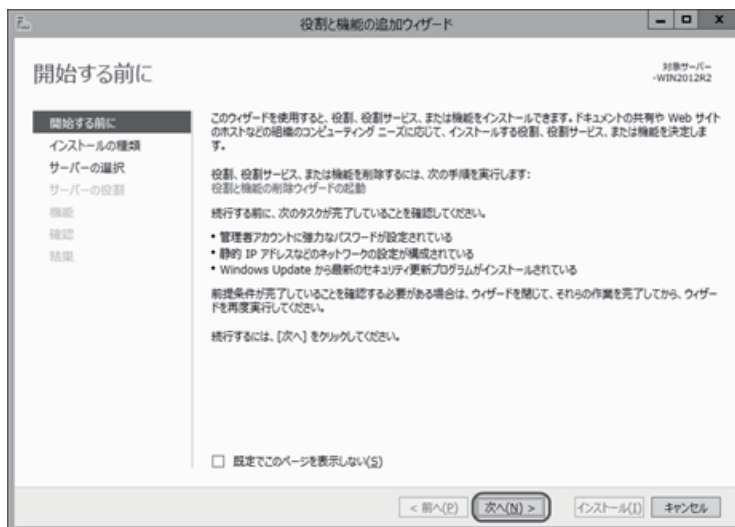
1. サーバermaneージャーの起動

サーバermaneージャーを起動し、「役割と機能の追加」を選択します。



2. 「役割と機能の追加ウィザード

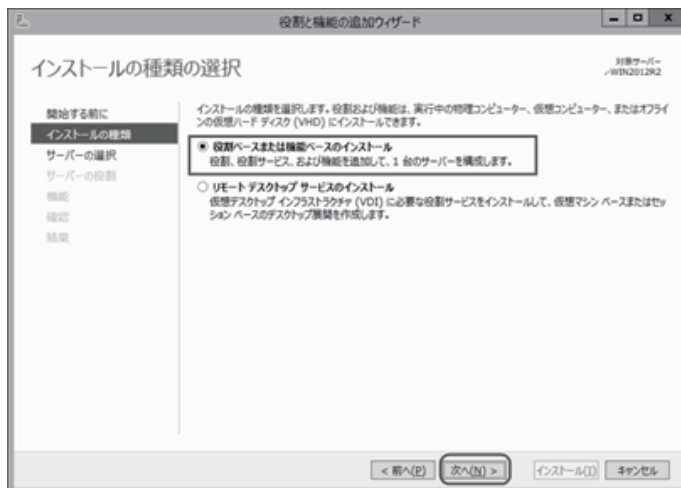
「役割と機能追加ウィザード」が起動しますので、そのまま「次へ」ボタンをクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

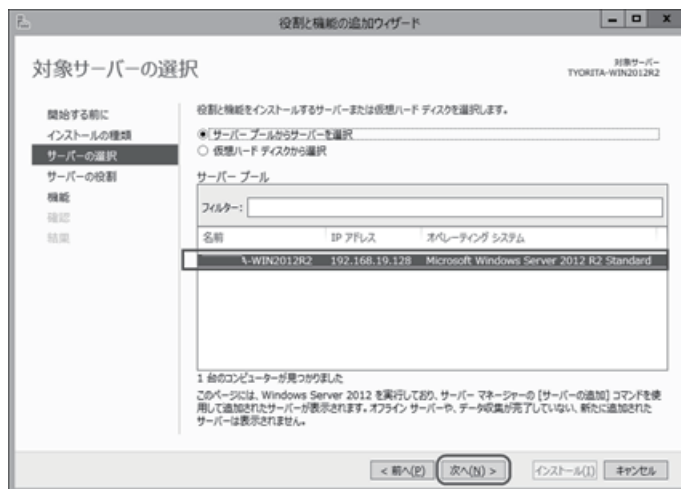
3. インストール種類の選択

インストールの種類を選択します。ここでは、「役割ベースまたは機能ベースのインストール」が選択されていることを認め、「次へ」をクリックします。



4. 対象サーバーの選択

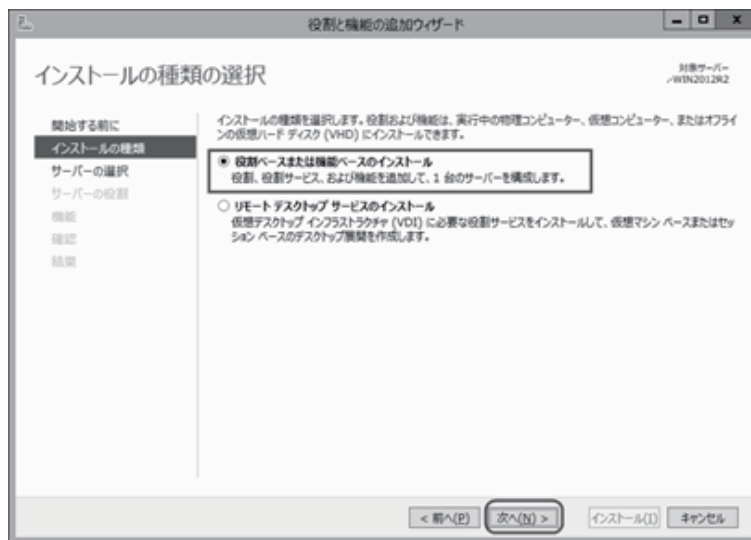
インストール対象となるサーバーが「サーバープール」一覧に表示され、選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

3. インストール種類の選択

インストールの種類を選択します。ここでは、「役割ベースまたは機能ベースのインストール」が選択されていることを認め、「次へ」をクリックします。



4. 対象サーバーの選択

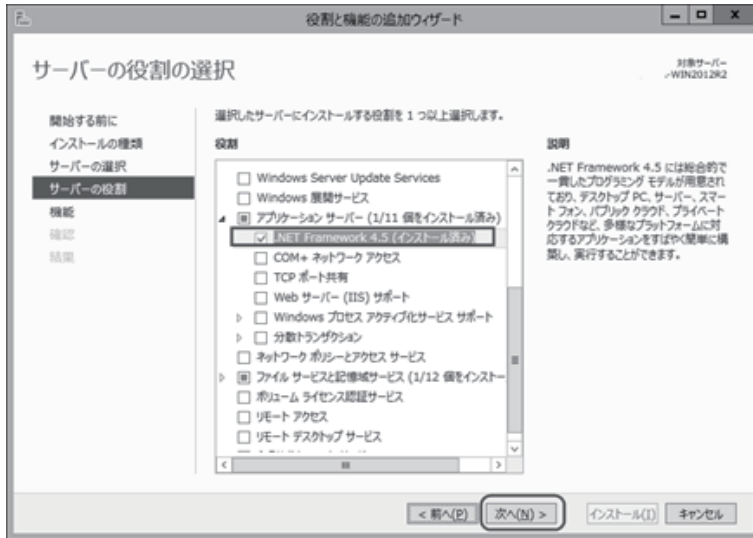
インストール対象となるサーバーが「サーバープール」一覧に表示され、選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

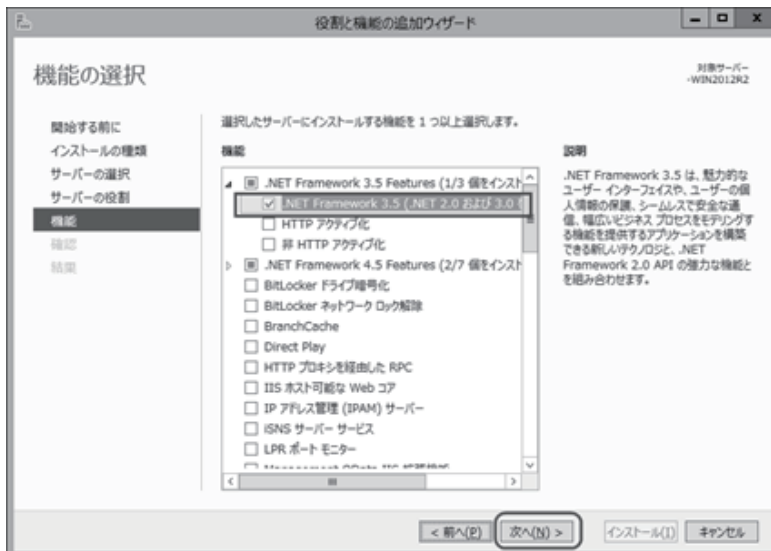
5. サーバーの役割の選択

役割一覧欄の「アプリケーションサーバー」→「.NET Framework 4.5」にチェック (☑) を付け、「次へ」をクリックします。



6. 機能の選択

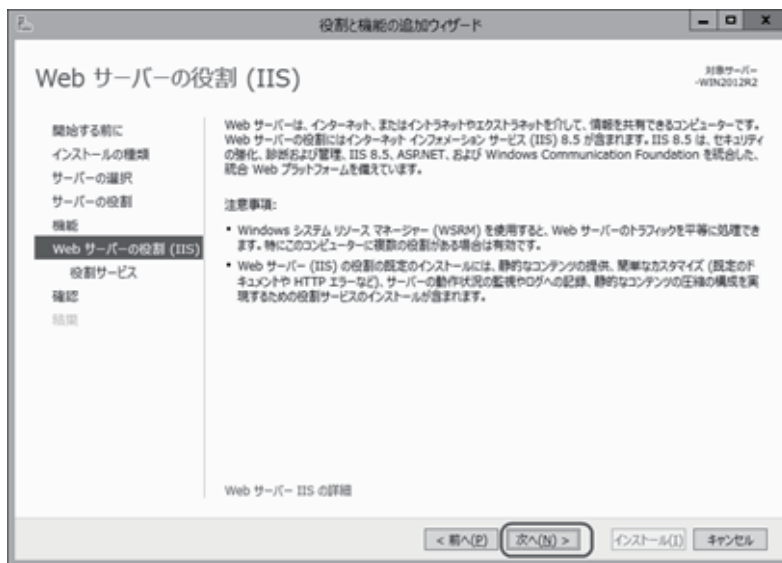
「機能の選択」画面が表示されますので「.NET Framework 3.5」にチェック (☑) を付け、「次へ」をクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

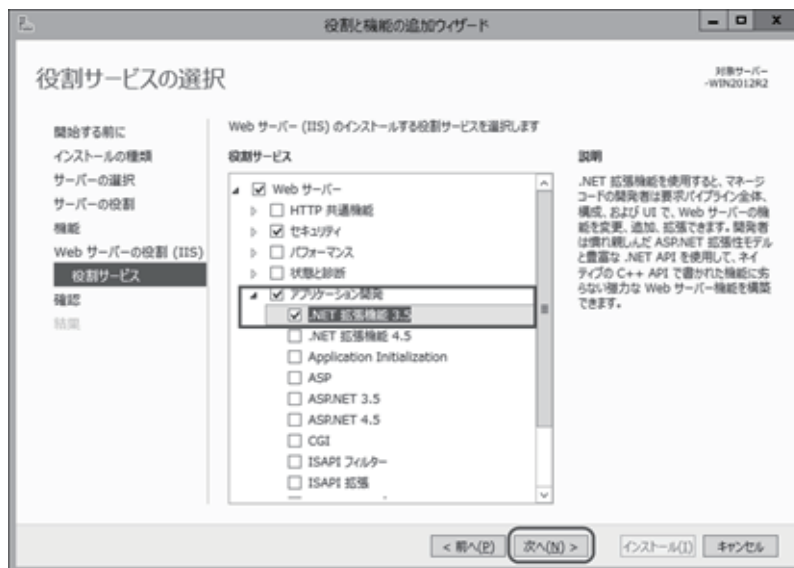
7. Web サーバーの役割 (IIS)

Web サーバーの役割画面が表示されます。そのまま「次へ」をクリックします。



8. 役割サービスの選択

役割サービス画面が表示されます。アプリケーション開発の「. NET 拡張機能 3.5」にチェック (☑) を付け、「次へ」をクリックします。

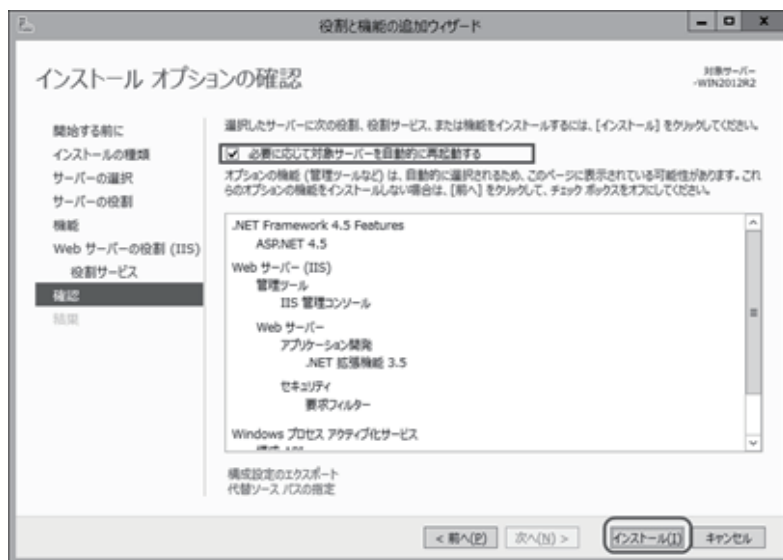


[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

9. インストールオプションの確認

インストールオプションの確認画面が表示されます。

「必要に応じて対象サーバーを自動的に再起動する」にチェック (☑) を付け、「インストール」をクリックします。



* インストールの進行状況が表示され、インストールを行います。

10. インストール完了

インストール進行状況画面に、「正常に完了しました。」のメッセージが表示されます。

「閉じる」をクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

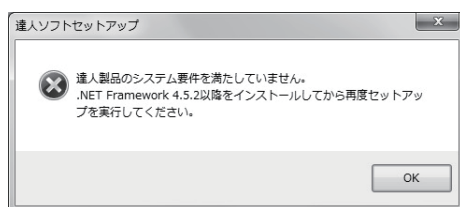
(1) 必要ソフトウェアのインストール

当製品をセットアップするためには、以下のソフトウェアが必要です。

- ・ Microsoft .NET Framework 4.5.2、 Microsoft .NET Framework 3.5 Service Pack1
- ※当製品の DVD 内に、「.NET Framework 4.5.2」「.NET Framework 3.5 Service Pack 1」が収録されています。
- インストールされていない場合は、こちらをご利用ください。

※必要システムがインストールされていない場合、各メッセージが表示されます。

- ・ 下図のようなメッセージが表示されたら、NET Framework 4.5.2 のインストールが必要です。



● DVD 内 収録先

スタンドアロン版

当システムプログラム DVD ⇒ Setup フォルダ内の OtherSetup フォルダ

LANPACK 版

当システムの環境構築 DVD ⇒ Setup フォルダ内の OtherSetup フォルダ

[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

OtherSetup フォルダ内に収録されているソフトウェアについて

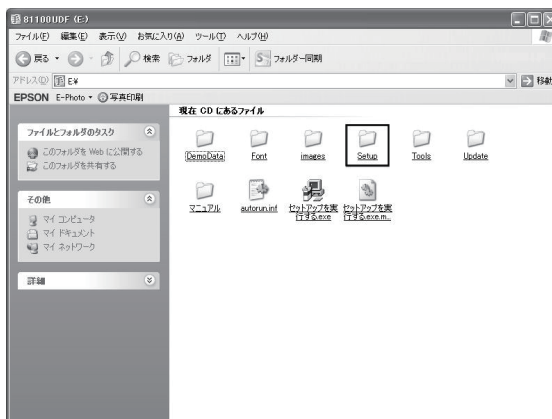
当システムのプログラム DVD の Setup フォルダ内には Microsoft SQL Server をインストールするために必要なソフトウェアを収録しています。インストールが必要な場合は、こちらをご利用ください。

1. コンピュータを開き、DVD ドライブを選択し、右クリックします。

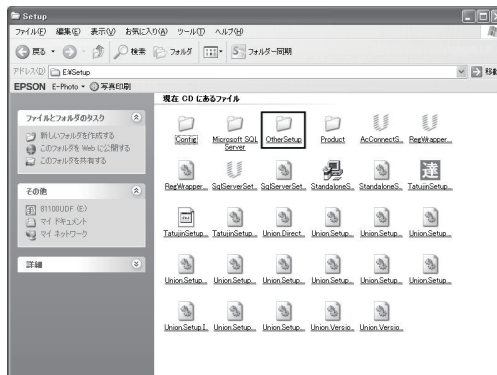
メニューが表示されたら、[開く] を選択します。



2. [Setup] フォルダをダブルクリックします。

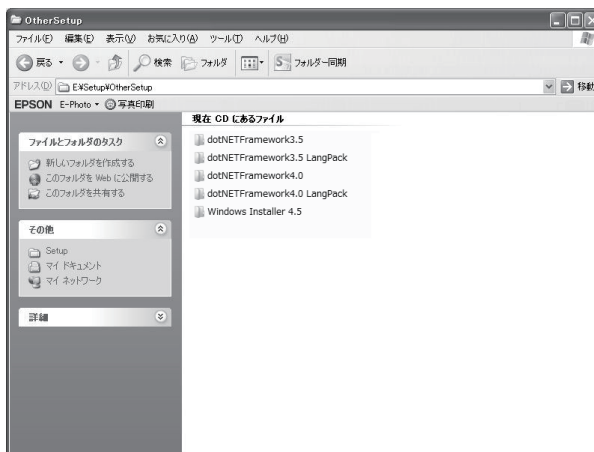


3. [OtherSetup] フォルダをダブルクリックします。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

4. 必要なソフトウェアが各フォルダへ収録されています。



OtherSetup フォルダ内構成

[dot NET Framework 4.5.2]

⇒ 1-2-13

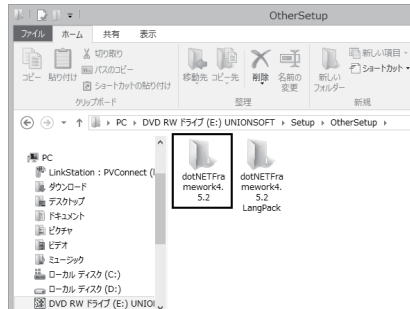
[dot NET Framework 4.5.2 LangPack]

⇒ 1-2-15

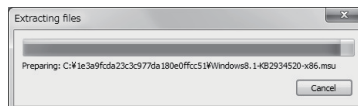
[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

◇ .NET Framework 4.5.2 のインストール

1. OtherSetup フォルダ内の [dotNETFramework4.5.2]-[dotNetFx452_Full_x86_X64setup.exe] をダブルクリックします。

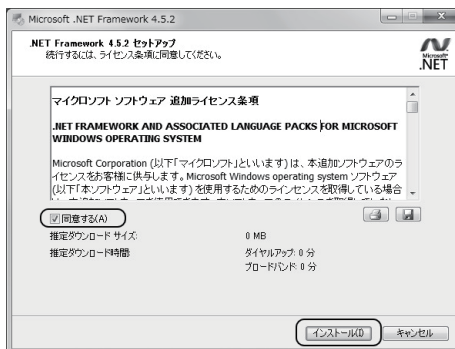


dotNETFramework4.5.2 フォルダ内の「dotNetFx452_Full_x86_X64 setup.exe」をダブルクリック

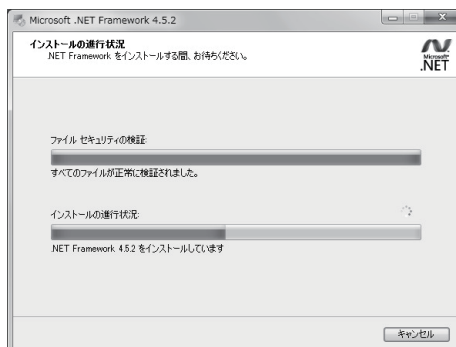


ファイルの抽出を開始します。終了するまでしばらくお待ちください。

2. セットアップ
[同意する]を選択し、[インストール]をクリックします。



3. インストールを開始します。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

4. セットアップ完了



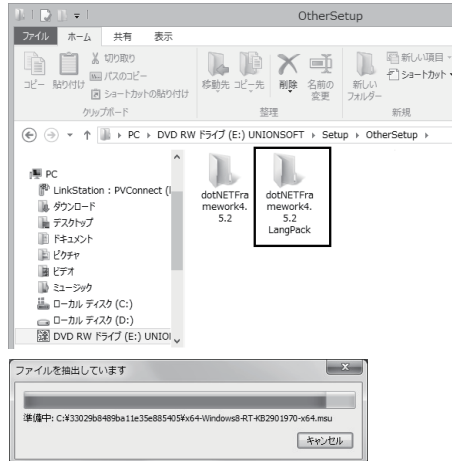
セットアップ完了画面が開いたら、[完了]をクリックします。

引き続き、「.NET Framework 4.5.2 日本語 Language Pack」のセットアップを行ってください。

[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

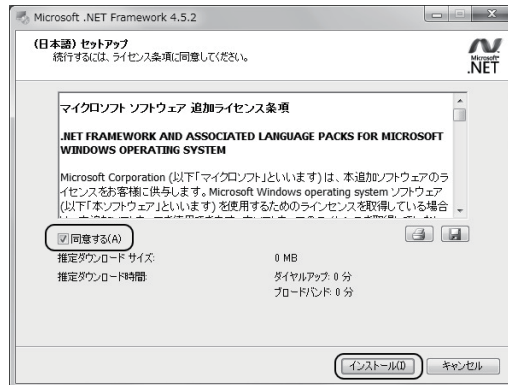
◇ .NET Framework 3.5 日本語 Language Pack のインストール

1. OtherSetup フォルダ内の [dotNETFramework4.5.2 LangPack] を開きます。
フォルダ内の [dotNetFx452_Full_x86_x64ja.exe] をダブルクリックします。

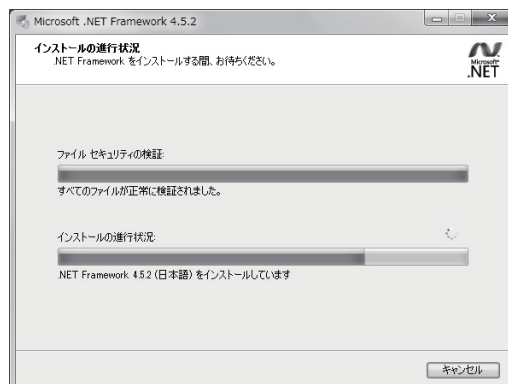


ファイルの抽出を開始します。終了するまでしばらくお待ちください。

2. セットアップ
「同意する (A)」を
選択し [インストール]
ボタンをクリックします。



3. インストールを開始します。



[1] - 2 必要ソフトウェアのインストール方法

4. セットアップ完了



[終了] ボタンをクリックします。

第 2 章 スタンドアロンセットアップ 目次

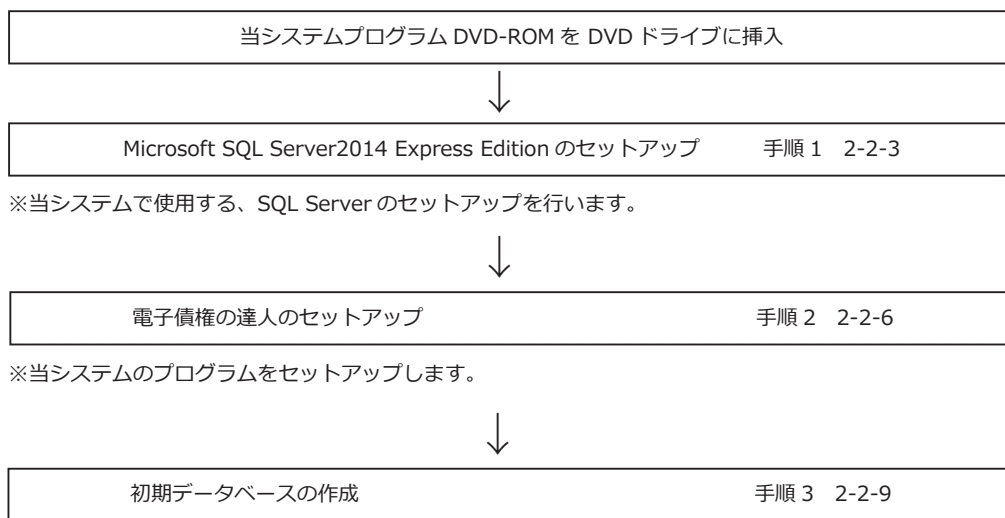
[1]	セットアップ前の注意点	2-1-1
[2]	セットアップ方法	2-2-1
[3]	セットアップ結果	2-3-1
[4]	削除方法	2-4-1

[2] - 1 セットアップ前の注意点

スタンドアロン版では、データベースエンジンである Microsoft SQL Server 2014 Express Edition の
セットアップと、当システムのセットアップが必要です。

下記の手順で、インストールを行います。

※奉行シリーズと連動する場合は、先に奉行シリーズをインストールして下さい。



※当システムで使用する、SQL Server のセットアップを行います。

※当システムのプログラムをセットアップします。

※ SQL Server に当システムのデータベースを作成します。

[2] - 1 セットアップ前の注意点

◆セットアップ前の注意点

< Microsoft SQL Server 2014 Express Edition がセットアップできる環境 >

Microsoft SQL Server2014 Express Edition をコンピュータにセットアップするには、以下のバージョンの環境が必要です。以下のセットアップがされているかどうかを確認してください。

OS Windows 10、Windows 8.1、Windows 7 Service Pack1 以降
その他 Microsoft .NET Framework4.5.2 以降
Microsoft .NET Framework4.5.2 日本語 Language Pack

* 当システムは、Windows 専用です。

当システムをセットアップして実行するためには、Windows 10、Windows8.1
Windows 7 Service Pack1 以降、
のいずれかが必要となります。

* セットアップは、管理者アカウントのユーザーで行ってください。

* セットアップをする前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。

* スクリーンセーバーや、アンチウイルスプログラム、その他常駐しているアプリケーションソフトがある場合は、それらのプログラムを無効や停止、終了する必要があります。

※アンチウイルスプログラムの無効や停止、終了方法は各製造元へお問い合わせください。

* セットアップ後に作成されたフォルダやプログラムは、変更・移動しないでください。
当システムが正常に起動できなくなります。

* セットアップ先は、必ずローカルディスク上を指定してください。

[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

- ◎当システムのプログラムディスクを DVD ドライブにセットすると、「電子債権の達人セットアップ」が自動起動します。
セットアップを実行すると、当システムを使用する際に必要なデータベースである SQL Server をセットアップし、続いて、当システムをセットアップします。
すでに当システムに必要な SQL Server がセットアップされている場合、当システムのプログラムだけがセットアップされます。※インストールされるプログラムによって下記を参照して下さい。

(1) 手形の達人等当社製品がインストールされていない環境にセットアップする

セットアッププログラムを起動し、1-1 SQL Server 2014 Express Edition のインストールより開始します。 ⇒ 2-2-3 へ

(2) 手形の達人等当社製品がインストールされている環境にセットアップする

2-1 旧製品のデータベースが、「SQL Server 2005 Express Edition」の場合

当製品は、SQL Server 2005 には対応していません。旧製品のバックアップデータを作成し、SQL Server 2005 Express Edition 及び旧製品の削除を行ってください。

その上で、セットアッププログラムを起動し、1-1 SQL Server 2014 Express Edition のインストールより開始します。 ⇒ 2-2-3 へ

2-2 旧製品のデータベースが「SQL Server 2008 R2 Express Edition」「SQL Server 2008 Express Edition」の場合

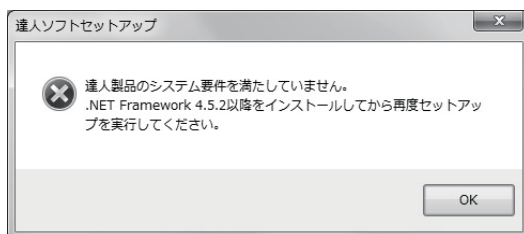
電子債権の達人が使用するデータベース「UNIONINSTANCE2」がありますので、セットアッププログラムを起動し、電子債権の達人のプログラムセットアップを開始します。

⇒ 2-2-6 へ

注意点

- 必要システムがインストールされていない場合、メッセージが表示されます。
当システムのインストール開始時に以下のメッセージ画面が表示された場合は、当システムのプログラム DVD に収録している各ソフトのインストールが必要です。
※ 1-2 [必要ソフトウェアのインストール方法] を参照し、必要システムをインストールしてください。

・当システムのプログラム DVD-ROM を DVD ドライブにセットした際に、下記メッセージが表示されたら



当システムのプログラム DVD に収録している「.NET Framework」をインストールしてください。

※ 1-2-4 参照

○必要ソフトウェアの有効化

Windows 8 以降の OS の場合、またサーバー OS が Windows 2008 R2 以降の場合、

「.NET Framework 3.5」を有効にする必要があります。無効の場合は、設定を有効に変更してください。

※ 1-2-1 参照

[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

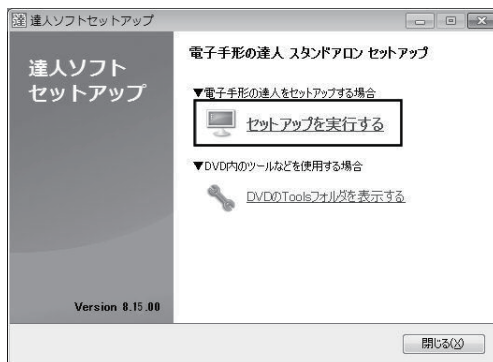
1. セットアッププログラムの起動

DVD-ROM ドライブに当システムの「プログラム DVD」をセットし、「Setup.exe の実行」をクリックします。



2. セットアッププログラムの実行

「セットアップを実行する」をクリックします。

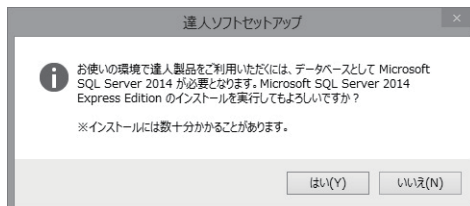


[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

手順 1 Microsoft SQL Server 2014 Express Edition のセットアップ

3. (前頁 1-1、2-1 のケース)

SQL Server 2014 Express Edition のインストールを実行するための確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックすると、SQL Server 2014 Express Edition のセットアップを開始します。

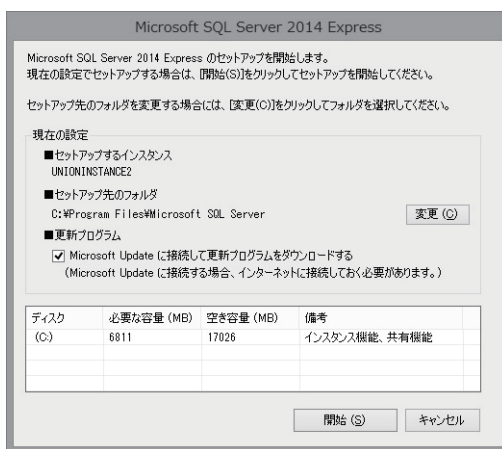


4. セットアップ先の指定

SQL Server のセットアップ先を指定し、[開始] ボタンをクリックします。

セットアップ先 初期値 C:\Program Files\Microsoft SQL Server

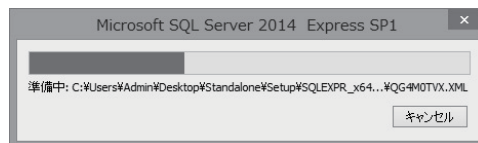
表示されているセットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。



5. SQL Server 2014 Express Edition のインストールを開始します。

※下図のようにいくつか画面が切り替わりますが操作は行わず、そのままお待ち下さい。

※コンピュータの処理能力によって差がありますが、10～40分程度の時間がかかります。

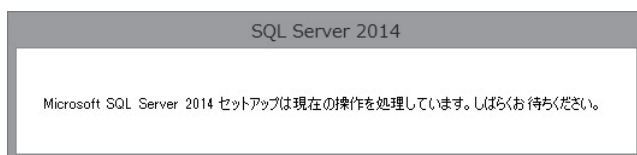
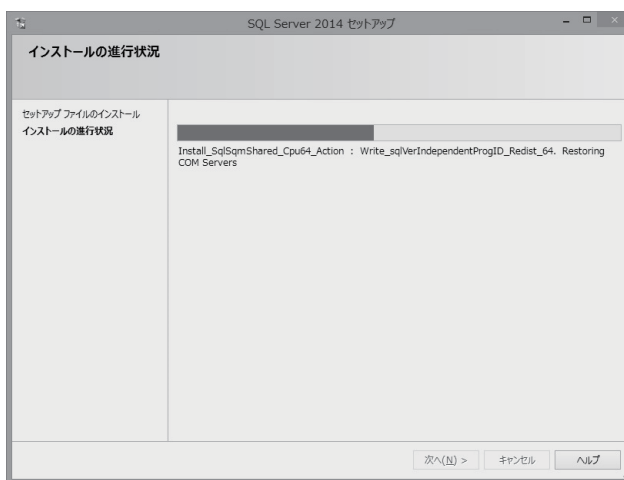
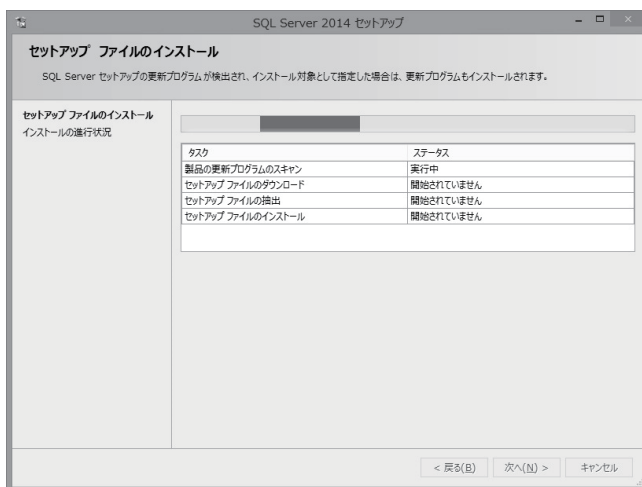


[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

* ユーザーアカウント制御画面

セットアップの途中で、ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、「はい」をクリックしてください。

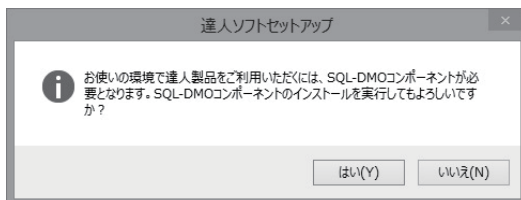
* 画面変遷 自動的にインストールが進んでいきますので、しばらくそのままお待ちください。



[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

6. SQL-DMO コンポーネントのインストール

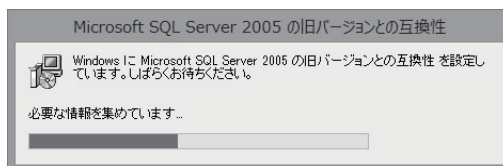
確認メッセージが表示されます。[はい] をクリックします。



* ユーザーアカウント制御

※ユーザーアカウント制御画面が表示された場合は、[はい] をクリックしてください。

インストールを開始し、Microsoft SQL Server 2005 の旧バージョンとの互換性を設定します。
終了までそのままお待ちください。



[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

手順2 当システムのプログラムセットアップ

7. 2-2-1 頁 2-2 のケース

電子債権の達人スタンドアロンセットアップウィザードが開きます。

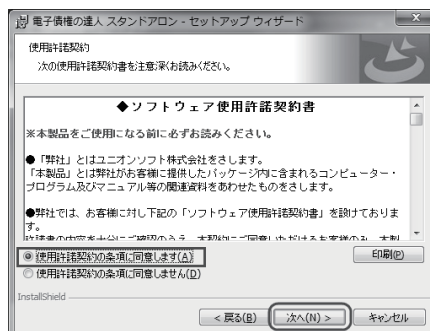
[次へ] ボタンを
クリックします。



8. 使用許諾契約書の同意

内容を確認し、「使用許諾契約書に同意します。」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

※同意しない場合はセットアップできません。

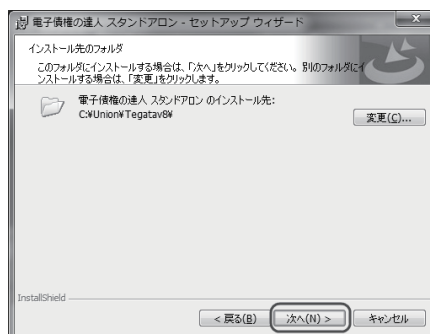


9. セットアップ先の指定

プログラムのセットアップ先を指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

初期値 C:¥Union¥Tegatav8

表示されているセットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。



[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

※セットアップ先の変更

[変更] ボタンをクリックするとインストール先フォルダーの変更画面が開きます。

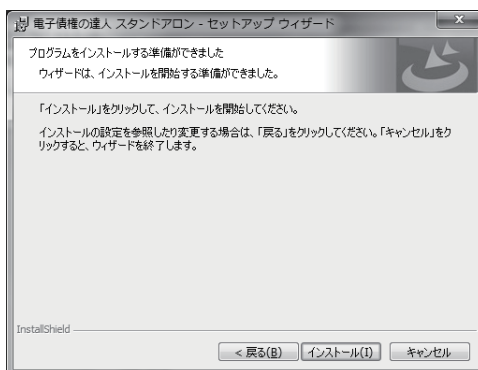
セットアップ先を C ドライブではなく D ドライブにしたい場合は、フォルダー名欄の C:¥Union¥Tegatav8 を D:¥Union¥Tegatav8 のようにドライブ名のみを変更します。

あらかじめ、作成済のフォルダを指定する場合は、探す場所欄の▼をクリックし、セットアップを行うドライブ・フォルダを選択します。

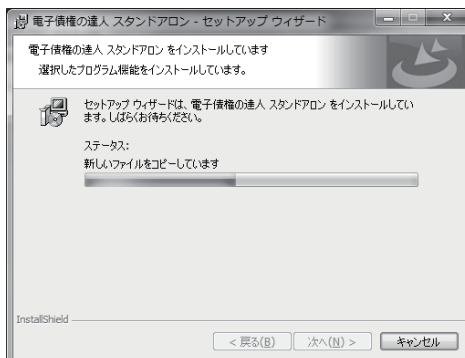


注意：[変更] ボタンをクリックし、他のドライブのみを選択した状態（D:¥などの表示）でインストールすると、当システムが正常に動作しない可能性があります。

10. インストールの開始 [インストール] ボタンをクリックします。



[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法



11. インストールの完了

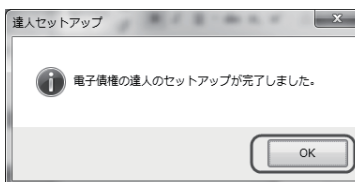
[閉じる] ボタンをクリックします。



12. セットアップ完了

セットアップ完了のメッセージが表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。



セットアップが終了すると、達人セットアップ画面に戻りますので、[閉じる] ボタンをクリックします。

[2] - 2 スタンドアロン セットアップ方法

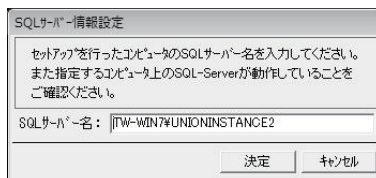
手順3 初回起動/初期データベース作成

当システムの初回起動時には、SQL サーバー情報設定と初期データベース作成を行います。

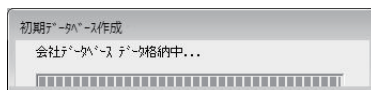
1. 電子債権の達人を起動します。接続する SQL サーバー名を指定します。

初期値 (PC名) ¥UNIONINSTANCE2

サーバー名を指定し、[決定] ボタンをクリックします。

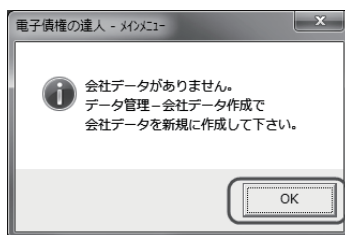


2. 初期データベース作成を開始します。



3. 初期データベースの作成が終了すると、メッセージが表示されます。

[OK] ボタンをクリックすると、当システムのメインメニューが表示されます。



[2] - 3 セットアップ結果

セットアップを行うと、運用に必要なフォルダ・データベース・ファイルが作成されます。

○作成されるフォルダの構成

セットアップによって、以下のフォルダが作成されます。

C : ¥Union セットアップ先フォルダ *セットアップ先を「C:¥Union」にした場合

 L Tegatav8

 L Bin 実行プログラムの格納領域

 L Data データ格納領域

 L DefData 初期データ作成用ファイル格納領域

 L Temp 一次ファイル格納領域 *バックアップ時などに使用します。

 L Tools 各種ツール格納領域

 * Tools 内のツールは、当社サポート担当より指示があった場合にご使用ください。

上記フォルダは、いずれも変更・移動しないでください。

当システムが正常に動作しなくなります。

○Data フォルダに格納されるデータ領域について

- ・初期データ作成時に以下のデータ領域が作成されます。

 ust8def.mdf・ust8def.ldf 会社データテンプレート

 ust8sys.mdf・ust8sys.ldf ユーザー情報などが格納されます。

- ・会社データ作成で、新規の会社データ領域を作成した際に以下のようなデータ領域が作成されます。

 ust8dat001.mdf・ust8dat001.ldf

会社データを新規に作成するごとに、データベースが 1 個追加されます。データベースが増えるたびに、ファイル名の末尾の数字が増えます。(ust8dat002、ust8dat003・・・)

○セットアップされるコンポーネント

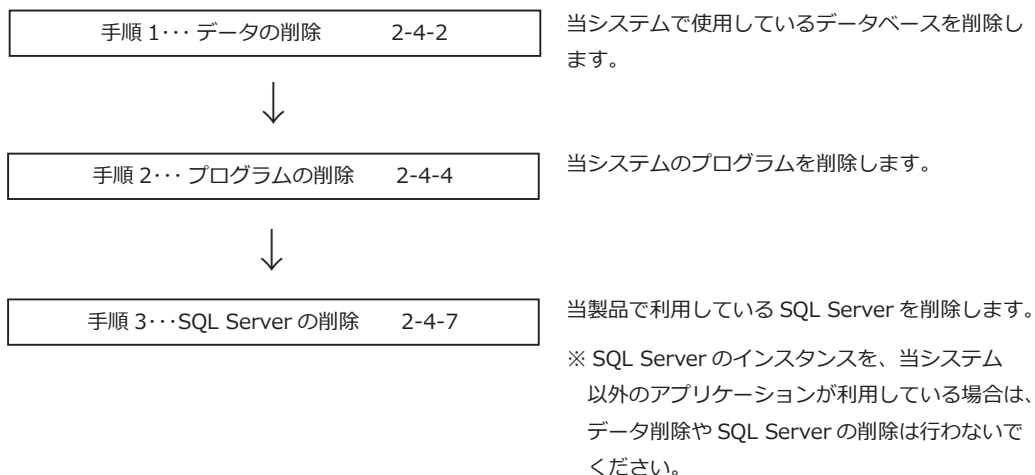
セットアップによって、以下のようなコンポーネントがセットアップされ、[コントロールパネル] - [プログラムと機能] 画面に表示されます。

- ・電子債権の達人
- ・Microsoft SQL Server 2014
- ・Microsoft SQL Server 2014 Native Client
- ・Microsoft SQL Server 2014 セットアップ (日本語)
- ・Microsoft SQL Server 2014 セットアップサポートファイル
- ・Microsoft SQL Server Brower
- ・Microsoft SQL Server VSS Writer
- ・Microsoft SQL Server 2005 の旧バージョンとの互換性

[2] - 4 システムの削除

1. 削除の手順

コンピュータからの削除



注意！

データの削除や SQL Server の削除をする場合は、必ず [データ管理]-[会社データ保存] メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成しておいてください。
バックアップデータがない場合は、一度削除したデータをもとに戻すことができません。

2. システム削除前の注意点

- * アンインストールは、管理者アカウントのユーザーで行ってください。
- * 念のため、[データ管理]-[会社データ保存] メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成しておいてください。
- * 当システムが起動していないことを確認してから、プログラムの削除を行ってください。
- * 手形発行を利用している場合は、自社用に作成した手形フォームもすべてバックアップを作成してください。
メニュー：[導入処理]-[フォーム設計]-[手形フォーム設計]

[2] - 4 システムの削除

手順 1 データの削除

初期データベースを含め、当システムで使用しているすべてのデータベースを削除します。

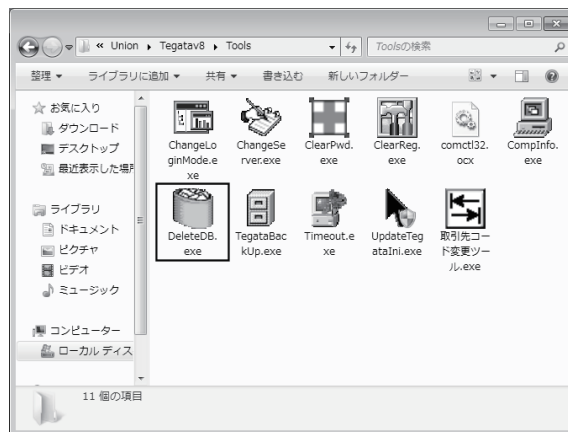
※再インストールを行う場合などで、データベースを引き続き使用する場合は、データベースの削除は必要ありません。

注意！

データベースを削除した場合、いままで使用していた会社データをもとに戻すことはできません。念のため、[データ管理]-[会社データ保存]メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成後に、この操作を行ってください。

1. データ削除ツール起動

当システムのインストールフォルダ [Union]-[Tegatav8]-[Tools] の「DeleteDB.exe」を実行します。



2. データ削除

当システムで使用しているすべてのデータ領域が表示されます。[削除] ボタンをクリックします。

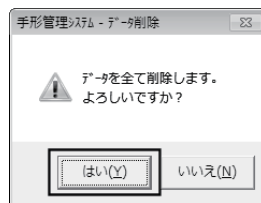
* 個別にデータ領域を指定することはできません。一括で削除を行います。



[2] - 4 システムの削除

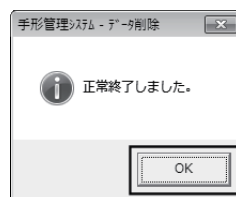
確認メッセージが表示されます。

[はい] ボタンをクリックすると削除を実行します。

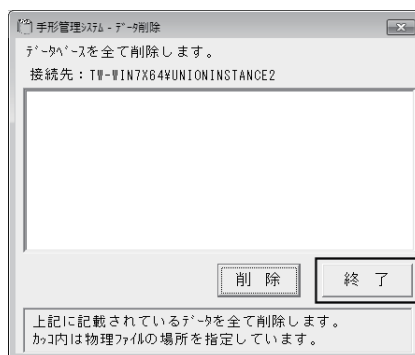


削除が終了すると、終了メッセージが表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。



終了メッセージを閉じると、データ削除画面に戻ります。



[終了] をクリッ
クします。

以上で、データ削除が完了しました。

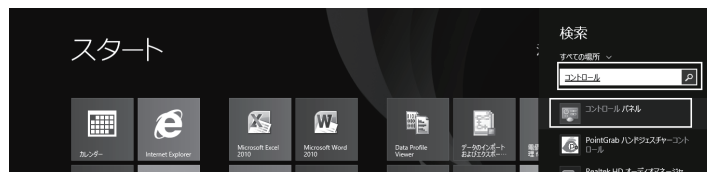
[2] - 4 システムの削除

手順2 プログラム（電子債権の達人）の削除

1. Windows のスタート画面右上の検索をクリックします。



検索画面で「コントロールパネル」と入力します。

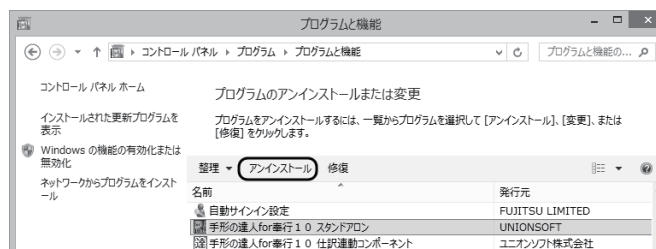


※ OS が Windows 10 の場合、[スタート] 中にある [すべてのプログラム] を表示し、Windows システムツールの中の [コントロールパネル] を選択します。

2. コントロールパネルの画面が開いたら、[プログラムのアンインストール] をクリックします。



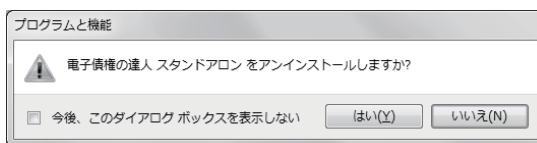
3. 電子債権の達人スタンドアロンの削除を行います。



「プログラムと機能」画面から、「電子債権の達人スタンドアロン」を選択し、「アンインストール」ボタンをクリックします。

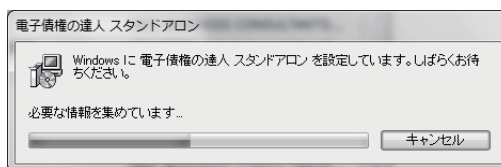
[2] - 4 システムの削除

4. 確認メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。



※ユーザーアカウント制御 (UAC) の画面が表示されたら、「はい」をクリックしてください。

5. 削除を開始します。



削除が終了したら、[プログラムと機能] 画面に戻ります。

[2] - 4 システムの削除

手順3 SQL Server の削除

当システムで作成した SQL Server のインスタンスを削除します。
必要に応じてご参照ください。

注意！ 必要な会社データは、事前に [データ管理]-[会社データ保存] メニューでバックアップデータを作成しておいてください。

1. SQL Server 構成マネージャの起動

コンピュータに、管理者アカウントのユーザーでログインします。

[スタート] 画面の検索をクリックし、検索画面で [構成マネージャー] と入力します。



[SQL Server 構成マネージャー] を右クリックし、[管理者として実行] を選択します。

※ OS が Windows 10 の場合

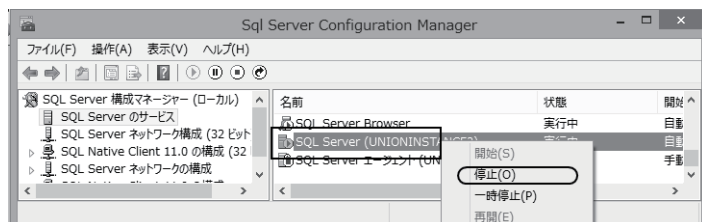
[スタート] の中にある [すべてのプログラム] - [Microsoft SQL Server2014] - [SQL Server2014 構成マネージャー] を右クリックし、「管理者として実行」を選択します。

※ユーザーアカウント制御 (UAC) 画面が表示されたら、「はい」をクリックします。

2. サービスの停止

SQL Server Configuration Manager 画面が表示されますので、「SQL Server のサービス」を選択します。

SQL Server (UNIONINSTANCE2) を右クリックし、[停止] を選択します。



[2] - 4 システムの削除

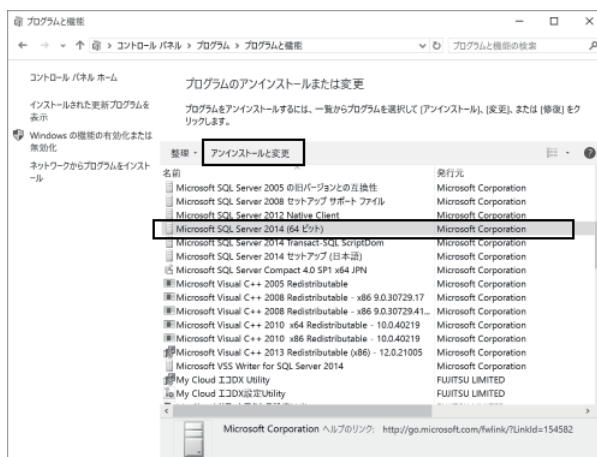
3. アンインストール画面の起動

[スタート] 画面の検索ボタンをクリックし、検索画面に [コントロールパネル] と入力します。
検索結果が表示されたら、「コントロールパネル」をクリックします。
コントロールパネル画面が開いたら、[プログラムのアンインストール] を選択します。



4. SQL Server の削除

[プログラムと機能] 画面から、「Microsoft SQL Server 2014」を選択し、[アンインストールと変更] ボタンをクリックします。



注意！ 必ず「Microsoft SQL Server 2014」を選択してください。

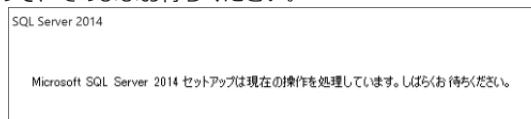
これ以外を選択した場合は、SQL Server を正常に削除できません。

[2] - 4 システムの削除

選択画面が開きますので、[削除]を選択します。

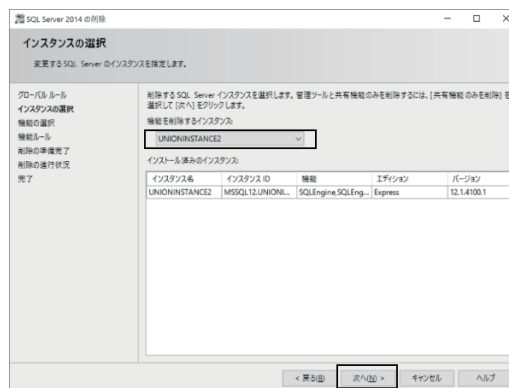


メッセージが表示されますので、そのままお待ちください。



5. インスタンスの選択

「機能を削除するインスタンス」で「UNIONINSTANCE2」が選択されているのを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



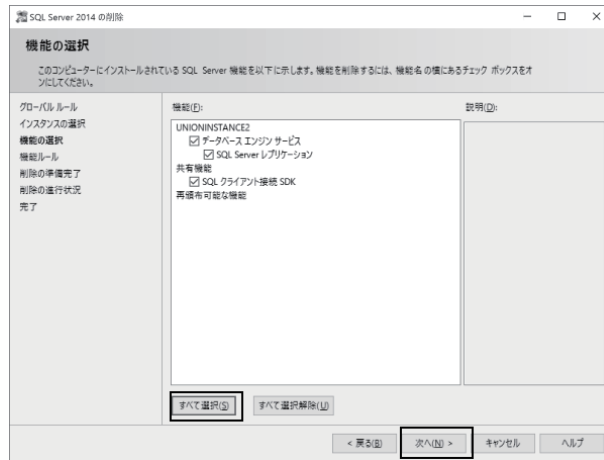
注意！ 「UNIONINSTANCE2」以外のインスタンスは削除しないでください。
他のアプリケーションが起動しなくなるおそれがあります。

[2] - 4 システムの削除

7. 機能の選択

[すべて選択]をクリックし、すべての機能にチェックが付いているのを確認して、[次へ]をクリックします。

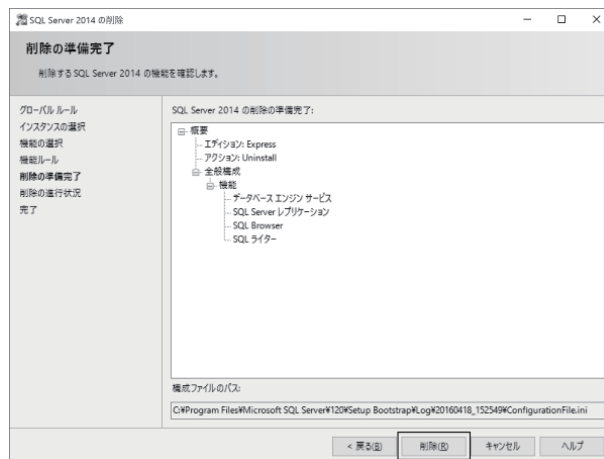
注意！ 他のアプリケーションがセットアップされている場合は、[共通機能]内のチェックは外してください。他のアプリケーションが起動しなくなるおそれがあります。



8. 削除の準備完了

内容を確認し、[削除] ボタンをクリックします。

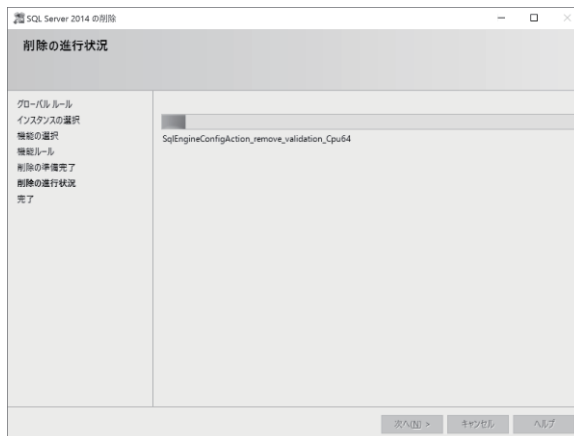
[削除] ボタンをクリックすると、機能の削除がはじまります。



[2] - 4 システムの削除

9. 削除

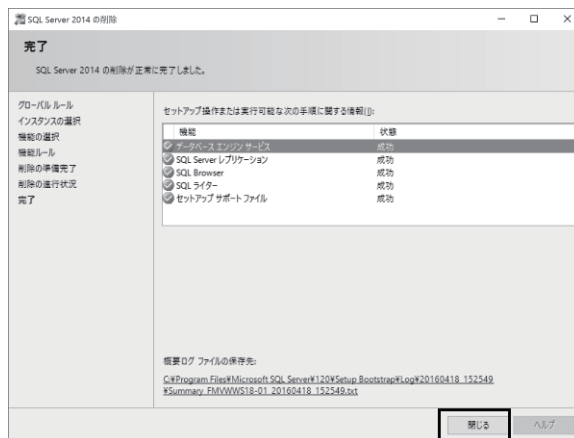
削除の進行状況が表示されます。終了までそのままお待ちください。



10. 完了

すべての機能の削除が終了したら、完了画面が表示されます。

エラーがないことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



以上で、SQL Server の削除が完了しました。「閉じる」ボタンをクリックしてください。

第3章 LANPACK セットアップ 目次

[1]	LANPACK セットアップの流れ	3-1-1
[2]	サーバーセットアップ	3-2-1
[3]	クライアントセットアップ	3-3-1
[4]	削除方法	3-4-1

[3] - 1 LANPACK セットアップの流れ

LANPACK版では、サーバーとなるコンピュータに、データベースエンジンである Microsoft SQL Server のセットアップと、当システムのサーバー用プログラムのセットアップします。また、実際に操作を行うクライアント用コンピュータごとに、当システムのクライアントセットアップと、3種類の作業が必要です。

< サーバーセットアップ >

- ・環境構築 DVD をサーバー用コンピュータにセットし、SQL Server をセットアップします。
- ・また当システムのプログラム DVD より、サーバーセットアップを実行し、サーバープログラムをセットアップするとともに、当システムのデータベースの構築を行います。

< クライアントセットアップ >

- ・クライアント用コンピュータに当システムのプログラムをセットアップし、クライアント用コンピュータで 当システムを運用できるようにします。

[3] - 1 LANPACK セットアップの流れ

セットアップに利用する DVD

当システムには、以下の DVD が同梱されています。ご購入いただいた製品によって、同梱されている DVD の数が異なりますので、ご確認ください。

●電子債権の達人 LANPACK をご購入いただいた場合

- ①サーバー環境構築 DVD 1 枚
→サーバー用コンピュータに、SQL Server をセットアップし、サーバー環境を構築します。
- ②手形の達人プログラム DVD 1 枚
→サーバー用コンピュータ・クライアント用コンピュータに当システムのプログラムをセットアップします。

計 2 枚

セットアップの手順

手形の達人
サーバー用コンピュータ



*サーバーセットアップ

手順 1…SQL Server のセットアップ

はじめて当製品のサーバーセットアップを行う場合は、①「サーバー環境構築 DVD」を使用して SQL Server をセットアップします。

手順 2…サーバープログラムのセットアップ

当製品のプログラム DVD ②を使用して、サーバー用コンピュータに当システムのサーバー用プログラムをセットアップします。

手順 3…初期データベースの作成

当システムを起動し、初期データベースの作成を行います。



手形の達人
クライアント用コンピュータ



*クライアントセットアップ

手順 4…クライアント用プログラムのセットアップ

当システムのプログラム DVD ②を使用し、クライアント用コンピュータにクライアントプログラムをセットアップします。

[3] - 1 LANPACK セットアップの流れ

セットアップ前の注意点 ※事前にご確認ください。

SQL Server、ドメインコントローラ（ドメイン環境の場合）、クライアント用コンピュータ、プリンタ等の環境をご確認ください。

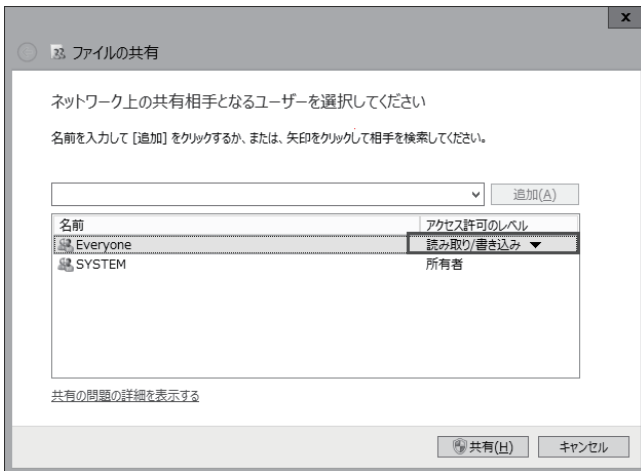
処理速度を上げるためには、コンピュータのメモリやマシン、ハードディスクの性能もご考慮ください。

また、データ量が増えることが予測される場合には、ハードディスクの空き容量も十分に確保してください。

- セットアップは Administrator（または権限のユーザー）で行ってください。
- セットアップする前に、他のアプリケーションを終了してください。
- スクリーンセーバーやアンチウィルスプログラム、その他常駐しているアプリケーションソフトがある場合は、それらのプログラムを停止、終了する必要があります。

※アンチウィルスプログラムの無効や停止、終了方法は各製造元へお問い合わせください。

- ◎ LANPACK のクライアント機で会社データの新規作成・バックアップ・復元する際の注意事項
 - ・クライアント機より会社データの新規作成・バックアップ及び復元を行うためには、サーバー機の「Union」フォルダが共有されている必要があります。
 - ・クライアント機より会社データの新規作成バックアップ及び復元を行うためには、サーバー機の「Union-TegataV8-Temp」フォルダに対して、クライアントのログインユーザーが書き込み、削除できる権限が必要です。
- Union フォルダの共有時、バックアップ・復元を行うクライアント機のログインユーザーに対して、書き込み・読み込み・削除の権限を設定してください。



共有設定を行う際、「アクセス許可のレベル」の設定をご確認ください。

×読み取り

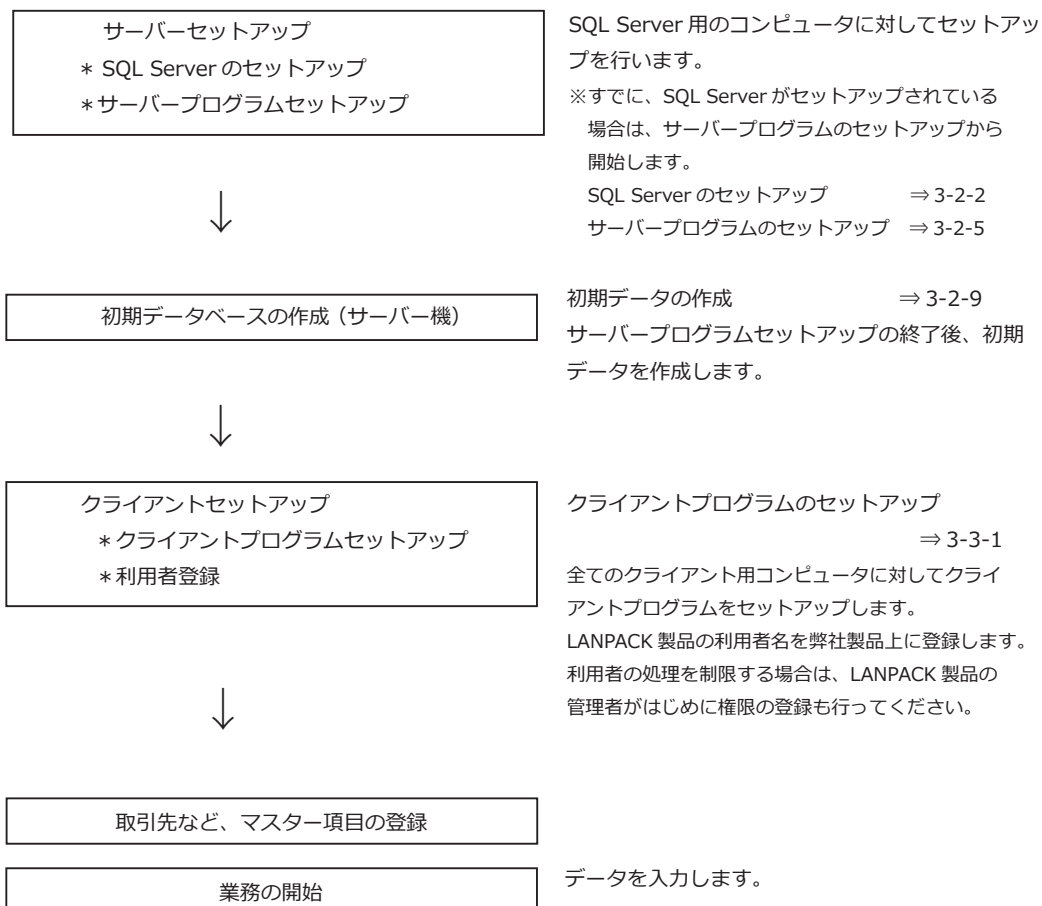
○読み取り / 書き込み

◎セットアップ後に作成されたフォルダやプログラムは、変更・移動しないでください。当システムが正常に起動できなくなります。

◎セットアップ先は、必ずローカルディスク上を指定してください。

[3] - 1 LANPACK セットアップの流れ

◇セットアップ操作の流れ



[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

SQL Server セットアップ前の確認事項

< セットアップに必要なソフトウェア >

.NET Framework 4.5.2 以降

.NET Framework 3.5 Service Pack 1

※上記のソフトウェアがインストールされていない場合は、SQL Server を正常にセットアップできません。

※当製品の環境構築 DVD 内に、「.NET Framework 4.5.2」が収録されています。

1-2 [必要ソフトウェアのインストール方法] を参照し、セットアップを行ってください。

※以下を参照し、当システムのセットアップを行ってください。

- ・ SQL Server のセットアップから行う ⇒ 3-2-2 へ
- ・ 当製品を一度もインストールしたことがない環境で、
既存の SQL Server のデータベースを使用して当システムを運用する ⇒ 3-2-5 へ
- ・ 既存の「UNIONINSTANCE2」をデータベースとして使用する ⇒ 3-2-5 へ

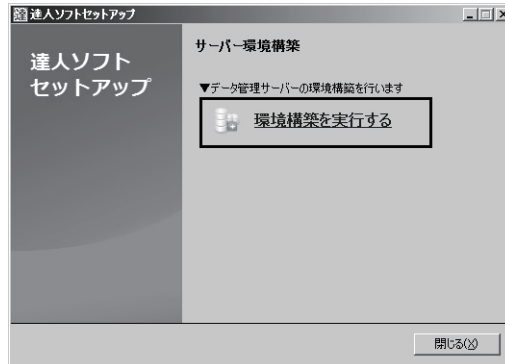
[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

手順 1 Microsoft SQL Server のセットアップ

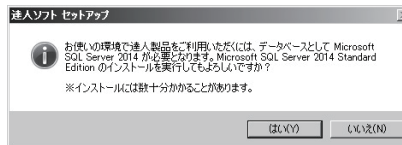
当製品に同梱されている環境構築 DVD より SQL Server をセットアップします。

当システムをセットアップするサーバー用コンピュータに、管理者グループのユーザーでログオンします。

1. 当システムの環境構築ディスクを DVD ドライブに挿入すると「達人ソフトセットアップ」が起動します。
[環境構築を実行する] をクリックします。



2. 確認メッセージが表示されますので、[はい] ボタンをクリックします。

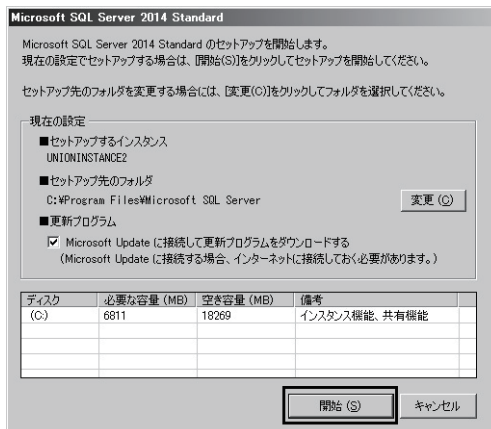


3. セットアップ先の指定

SQL Server のセットアップ先を指定し、[開始] ボタンをクリックします。

※セットアップ先 初期値 C:\Program Files\Microsoft SQL Server

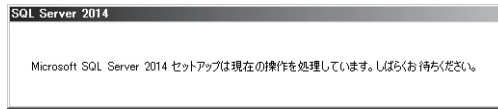
表示されているセットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。



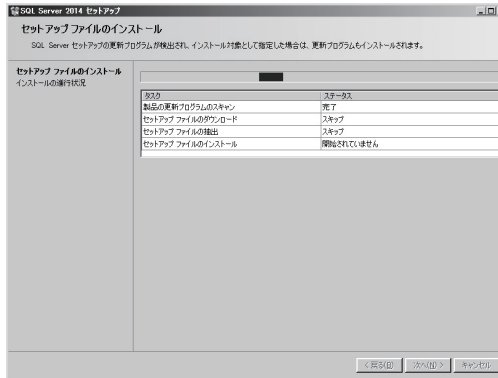
[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

4. SQL Server 2014 のインストールを開始します。

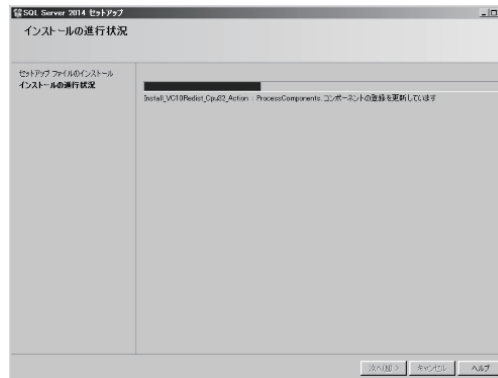
※下図のように画面が切り替わりますが操作は行わず、そのままお待ち下さい。



※コンピュータの処理能力によって差がありますが、10～40分程度の時間がかかります。

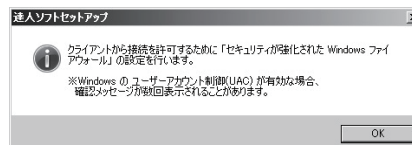


インストールの進行状況



5. ファイアウォール設定

※ SQL Server のインストールが正常に完了すると、ファイアウォール設定の確認メッセージが表示されます。

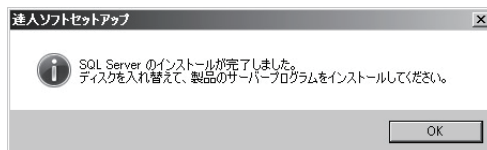


メッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。

[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

- ファイアウォールの確認メッセージを「OK」で進むと、Windows のユーザーアカウント制御の確認メッセージが何回か表示されます。その都度「はい」をクリックし、進めます。

6. SQL Server のセットアップが完了すると確認メッセージが表示されます。



「OK」をクリックします。

以上で SQL Server のインストールが終了します。

DVD-ROM ドライブのディスクを、当システムのプログラムディスクへ入れ替え、サーバープログラムのセットアップを行なってください。

参考：すでに UNIONINSTANCE2 が存在する環境で、環境構築 DVD を起動した場合

当製品のサーバープログラムをセットアップする環境にすでに [UNIONINSTANCE2] が存在する場合、上記手順の 5：ファイアウォール設定画面と 6：完了メッセージ画面が表示されます。「OK」をクリックし、DVD-ROM を当システムのプログラム DVD へ入れ替え、サーバープログラムのセットアップを行なってください。

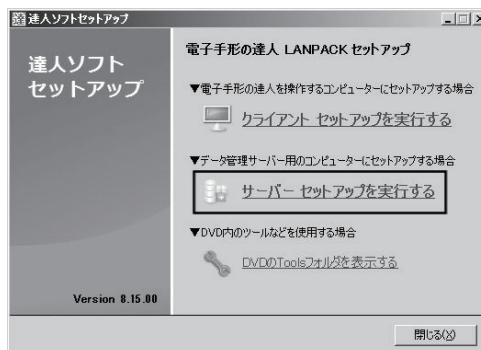
[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

手順2 サーバー用プログラムのセットアップ

当システムのサーバープログラムをセットアップします。

※すでに SQL Server がセットアップされているサーバー用コンピュータに、当システムをセットアップする場合は、ここから作業をスタートします。

1. 当システムのプログラムディスクを DVD-ROM ドライブに挿入すると、「達人ソフトセットアップ」画面が表示されます。[サーバーセットアップを実行する]をクリックします。



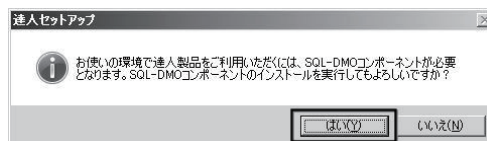
2. SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップ

SQL Server 2014 を当システムのデータベースとして使用する場合に、SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップを行います。

※すでに、SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップが行われている環境では以下の画面は表示されません。

SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップを開始します。

[はい] ボタンをクリックします。



セットアップを開始します。



終了までそのままお待ちください。

SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップが完了しました。

[OK] ボタンをクリックします。

[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

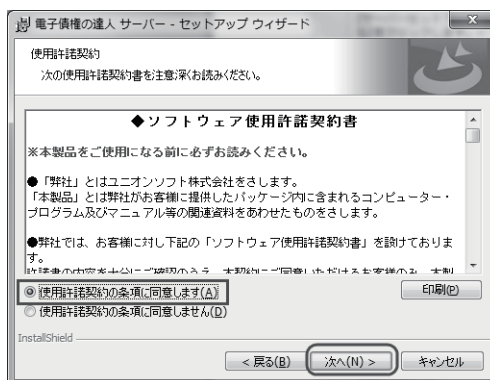
3. セットアップウィザード画面



[次へ] ボタンを
クリック

4. 使用許諾契約書

内容を確認し、「使用許諾契約書に同意します。」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。
※同意しない場合は、セットアップできません。



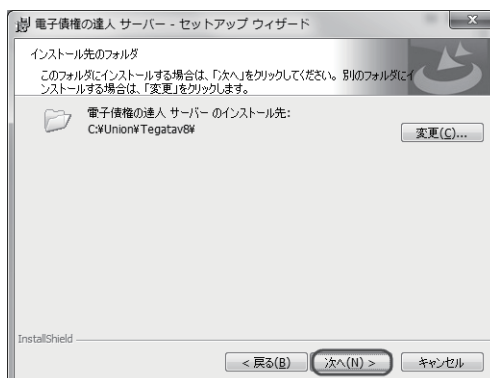
5. セットアップ先の指定

プログラムのセットアップ先を指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

初期値

C:\¥Union¥Tegatav8¥

表示されているセットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。

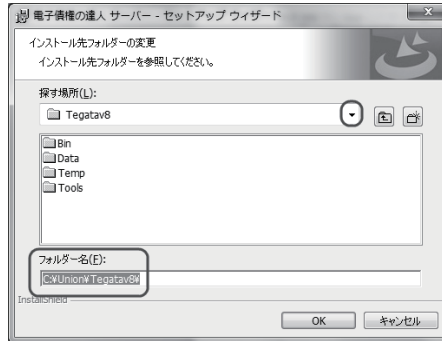


[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

* セットアップ先の変更 [変更] ボタンをクリックすると、インストール先フォルダー画面が開きます。

例：セットアップ先を C ドライブではなく D ドライブにしたい場合は、フォルダー名欄の

C:¥Union¥Tegatav8 を D:¥TUnion¥Tegatav8 のようにドライブ名のみを変更します。



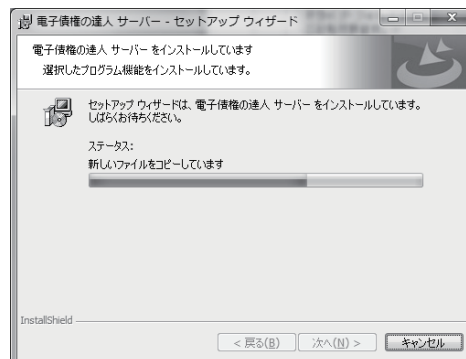
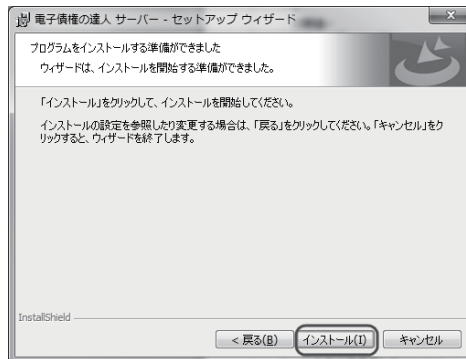
* 探す場所横の▼をクリックし、ドライブフォルダを指定することもできます。

注意！

[変更] ボタンをクリックし、他のドライブのみを選択した状態 (D:¥ などの表示) でインストールすると、当システムが正常に動作しない可能性があります。

6. インストールの開始

[インストール] ボタンをクリックすると、インストールを開始します。



[3] - 2 LANPACK サーバーセットアップ

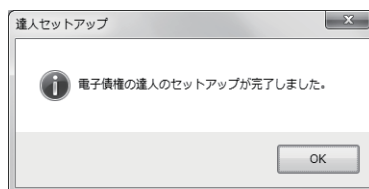
7. インストールの完了

[閉じる] ボタンを
クリックします。



8. セットアップ完了

セットアップ完了のメッセージが表示されます。



[OK] ボタンをクリックします。達人ソフトセットアップ画面に戻ります。

◎セットアップが終了したら、当システムを起動し、初期データベースの作成を行なってください。

[3] - 2 LANPACK サーバセットアップ

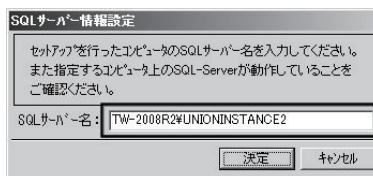
手順3 初期データベースの作成

サーバプログラムのインストールが終了したら、引き続き当システムを起動し、サーバ情報の設定と初期データベースの作成を行います。

1. 当システムの起動

当システムのサーバプログラムを起動します。

初回起動時は、SQL サーバ接続設定画面が開きますので、接続する SQL Server 名を指定します。



※初期値 (PC名) #UNIONINSTANCE2

サーバ名を指定し、[決定] ボタンをクリックします。

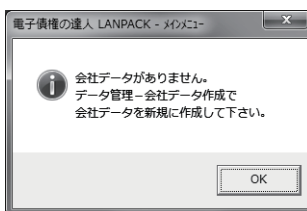
注意！ 当製品の環境構築 DVD より SQL Server をセットアップせず、既存のインスタンスに接続する場合は、SQL サーバ情報設定画面の「UNIONINSTANCE2」を接続するインスタンス名に変更してください。

2. 初期データベース作成を開始します。



初期データベース作成を開始します。

3. 初期データベースの作成が終了すると、メッセージが表示されます。



[OK] ボタンをクリックすると、当システムのメインメニューが表示されます。

[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

サーバー用コンピュータに当システムのサーバー用プログラムのセットアップが終了したら、各クライアント用コンピュータにクライアント用プログラムのセットアップを行います。

セットアップ前の注意点

- * セットアップは、システムファイルや共有ファイルが使用中の時には、そのファイルの追加や更新ができません。セットアップを行う前に、他のアプリケーションをすべて終了させてください。
- * スクリーンセーバーやアンチウイルスプログラム、その他常駐しているアプリケーションソフトがある場合は、それらのプログラムを無効や停止、終了する必要があります。
※アンチウイルスプログラムの無効や停止、終了方法は各製造元へお問い合わせください。
- * 当システムを使用するすべてのクライアント用コンピュータに対して、クライアントプログラムセットアップを行なってください。

注意！

セットアップ後に作成されたフォルダやプログラムは、変更・移動しないでください。
当システムが正常に起動できなくなります。
セットアップ先は、必ずローカルディスク上を指定してください。

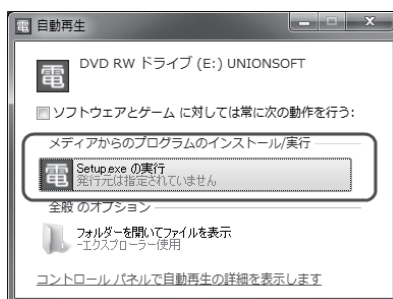
[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

LANPACK クライアントプログラムのセットアップ

当システムをセットアップするクライアント用コンピュータに Administrator（または Administrator 権限を持つユーザーアカウント）でログインします。

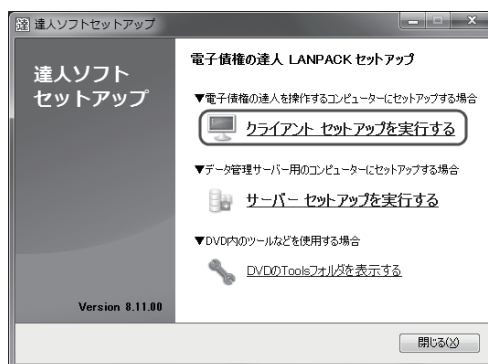
1. 自動再生画面

DVD-ROM ドライブに当システムの「プログラム DVD」をセットし、「Setup.exe の実行」をクリックします。



2. セットアッププログラムの実行

[クライアントセットアップを実行する] をクリックします。



[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

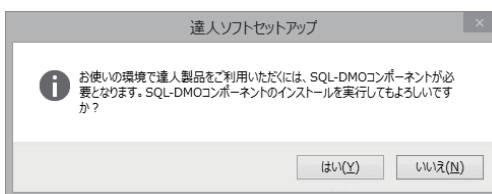
3. SQL Server 旧バージョンとの互換性語セットアップ

SQL Server 2014 を当システムのデータベースとして使用する場合に、SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップを行います。

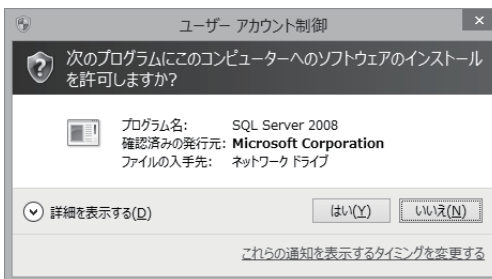
※すでに、SQL Server 旧バージョンとの互換性セットアップが行われている環境では以下の画面は表示されません。

Microsoft SQLServer2005 の旧バージョンとの互換性セットアップを開始します。

[はい] ボタンをクリックします。



ユーザーアカウント制御の画面が表示されたら、[はい] をクリックします。



始まります。終了までそのままお待ちください。



互換性セットアップが終了したら、セットアップウィザード画面が開きます。

[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

4. セットアップウィザード画面

セットアップウィザード画面が開きます。

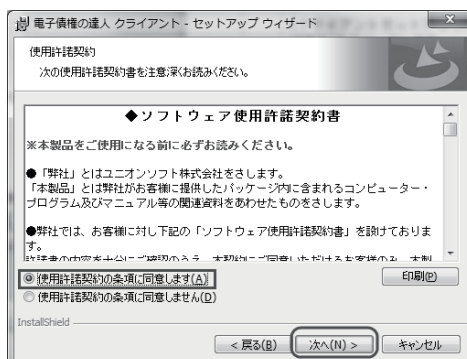
[次へ (N)] ボタンを
クリックします。



5. 使用許諾契約書の同意

内容を確認し、「使用許諾契約書に同意します。」を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

※同意しない場合はセットアップできません。

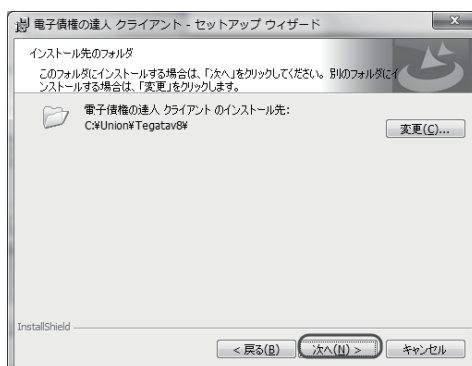


6. セットアップ先の指定

プログラムのセットアップ先を指定し、[次へ] ボタンをクリックします。

▽初期値 C:¥Union¥Tegatav8

表示されているセットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。



※セットアップ先の変更 セットアップ先を変更する場合は、[変更] ボタンをクリックします。

[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

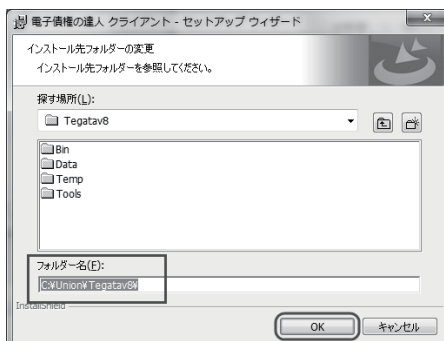
※セットアップ先の変更

[変更] ボタンをクリックするとインストール先フォルダの変更画面が開きます。

セットアップ先を C ドライブではなく D ドライブにしたい場合は、フォルダー名欄の

C:¥Union¥Tegatav8 を D:¥Union¥Tegatav8 のようにドライブ名のみを変更します。

あらかじめ、作成済のフォルダを指定する場合は、探す場所欄の▼をクリックし、セットアップを行うドライブ・フォルダを選択します。

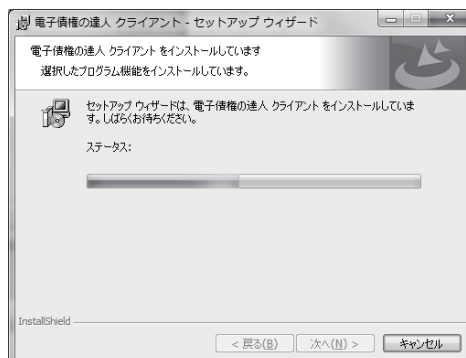


注意！

[変更] ボタンをクリックし、他のドライブのみを選択した状態(D:¥ などの表示)でインストールすると、当システムが正常に動作しない可能性があります。

7. インストールの開始

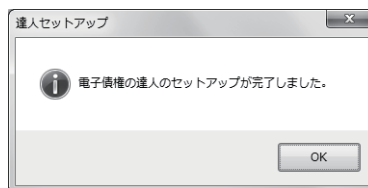
[インストール] ボタンをクリックすると、インストールを開始します。



[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

8. インストールの完了

[閉じる] ボタンをクリックします。



セットアップ完了のメッセージが表示されます。「OK」をクリックすると「達人ソフトセットアップ」画面に戻ります。[OK] ボタンをクリックします。

[3] - 3 LANPACK クライアントセットアップ

◇初回起動／サーバー情報設定

当システムの初回起動時には、サーバー情報設定を行います。

1. 電子債権の達人クライアントプログラムを起動します。

接続するサーバー名を指定します。

サーバー名：サーバー機で入力した SQL サーバー名と同じサーバー名を入力します。

例 [サーバー PC 名 ¥UNIONINSTANCE2]

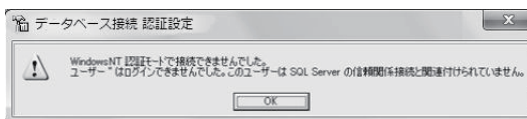


2. サーバー名を指定し、[決定] ボタンをクリックします。

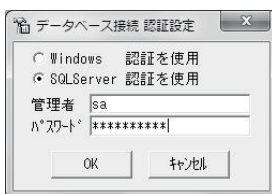
[決定] をクリックしたら、メインメニューが表示されます。

(会社データを作成していない場合は右のメッセージが表示されます。[O K] ボタンをクリックするとメインメニューが表示されます。)

◆ [決定] ボタンをクリックした後に、下記メッセージが表示された場合



1. [O K] ボタンをクリックすると、データベース接続認証 設定画面が表示されます。



2. [SQL Server 認証を使用] を選択します。

接続する SQL Server の管理者 sa に対するパスワードを入力します。

※参考

管理者 sa のパスワードが不明の場合、下記の管理者、パスワードを入力してください。

管理者 UNIONsa

パスワード union7778!

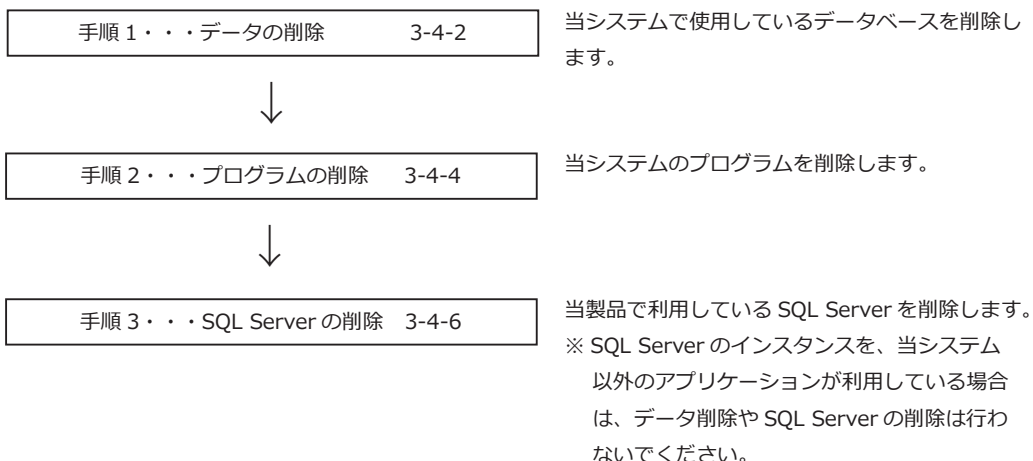
3. [O K] ボタンをクリックするとメインメニューが表示されます。

[3] - 4 LANPACK 削除方法

1. 概要

◇削除の手順

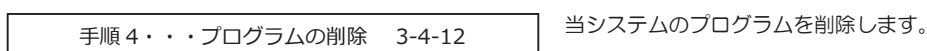
- ・サーバー用コンピュータからの削除



注意！

- データの削除や SQL Server の削除をする場合は、必ず [データ管理]-[会社データ保存] メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成しておいてください。
- バックアップデータがない場合は、一度削除したデータをもとに戻すことができません。

- ・クライアント用コンピュータからの削除



2. システム削除前の注意点

- * アンインストールは、管理者グループのメンバーで行ってください。
- * 念のため、[データ管理]-[会社データ保存] メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成しておいてください。
- * 当システムが起動していないことを確認してから、プログラムの削除を行ってください。
- * 手形発行を利用している場合は、自社用に作成した手形フォームもすべてバックアップを作成してください。(メニュー：[導入処理]-[フォーム設計]-[手形フォーム設計])

[3] - 4 LANPACK 削除方法

手順 1 データの削除

初期データベースを含め、当システムで使用しているすべてのデータベースを削除します。

※再インストールを行う場合などで、データベースを引き続き使用する場合は、データベースの削除は必要ありません。

注意！ データベースを削除した場合、いままで使用していた会社データをもとに戻すことはできません。念のため、[データ管理]-[会社データ保存]メニューで、すべての領域のバックアップデータを作成後に、この操作を行ってください。

1. データ削除ツール起動

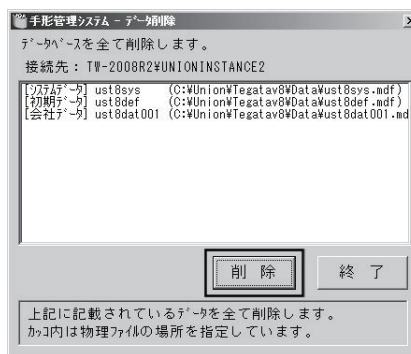
当システムのインストールフォルダ [Union]-[Tegatav8]-[Tools] の「DeleteDB.exe」を実行します。



2. データ削除

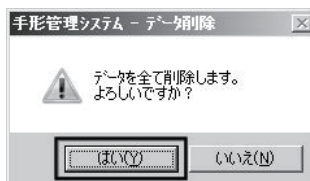
当システムで使用しているすべてのデータ領域が表示されます。[削除] ボタンをクリックします。

* 個別にデータ領域を指定することはできません。一括で削除を行います。

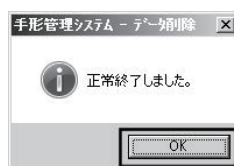


[3] - 4 LANPACK 削除方法

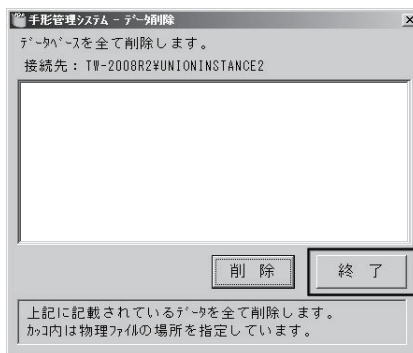
確認メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックすると削除を実行します。



削除が終了すると、終了メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックします。



終了メッセージを閉じると、データ削除画面に戻ります。



[終了]を
クリック
します。

以上で、データ削除が完了しました。

[3] - 4 LANPACK 削除方法

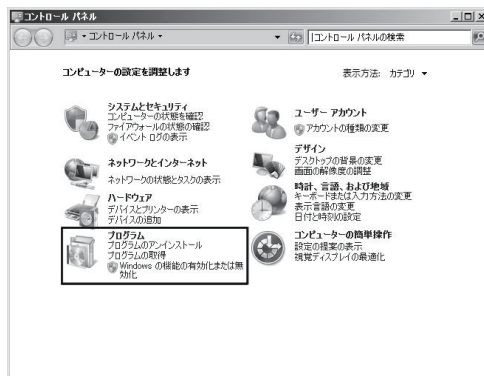
手順2 当システム サーバープログラムの削除

当システムのサーバープログラムを削除します。

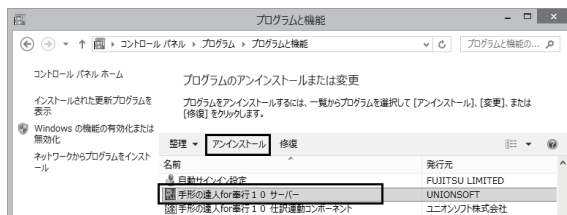
1. Windows のスタートから [コントロールパネル] をクリックします。
※ Windows Server 2012 の場合は、Windows のスタート画面で右クリックし、アプリケーションの [すべてのアプリ] をクリックし、[コントロールパネル] を選択します。



2. [プログラムのアンインストール] をクリックします。

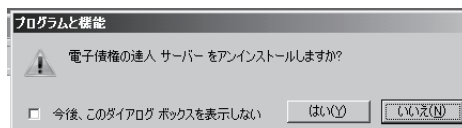


3. [プログラムと機能] 画面が表示されます。[電子債権の達人サーバー] を選択し、[アンインストール] ボタンをクリックします。

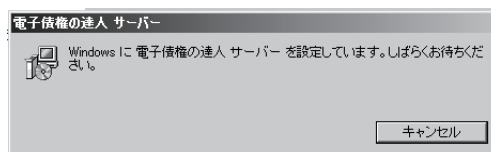


[3] - 4 LANPACK 削除方法

4. 確認メッセージが表示されます。 [はい] ボタンをクリックします。



5. 削除を開始します。



削除が終了したら、[プログラムと機能]画面に戻ります。

[3] - 4 LANPACK 削除方法

手順3 SQL Server の削除

当システムで作成した SQL Server のインスタンスを削除します。
必要に応じてご参照ください。

注意！ 必要な会社データは、事前に [データ管理]-[会社データ保存] メニューでバックアップデータを作成しておいてください。

1. SQL Server 構成マネージャの起動

コンピュータに管理者アカウントのユーザーでログオンします。

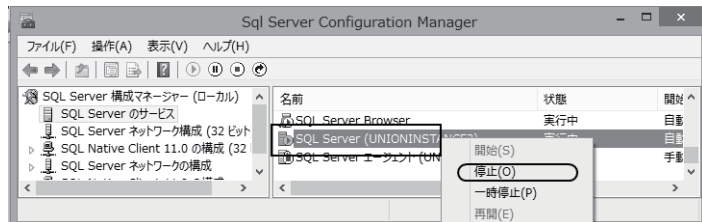
[スタートボタン] をクリックし、[すべてのプログラム]-[Microsoft SQL Server 2014]-[構成ツール]-[SQL Server 構成マネージャー] を右クリックし、 [管理者として実行] を選択します。

※ Windows Server 2012 の場合は、Windpws のスタート画面で右クリックし、アプリバーの [すべてのアプリ] をクリックし、 [SQL Server 構成マネージャー] を選択します。

2. サービスの停止

「SQL Server のサービス」を選択します。

SQL Server (UNIONINSTANCE2) を右クリックし、 [停止] を選択します。



[3] - 4 LANPACK 削除方法

3. アンインストール画面の起動

スタートボタンをクリックし、[コントロールパネル]を選択します。

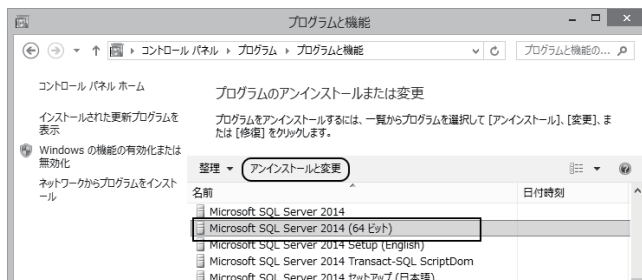
※ Windows Server 2012 の場合は、Windpws のスタート画面で右クリックし、アプリバーの [すべてのアプリ] をクリックし、[コントロールパネル] を選択します。

[プログラムのアンインストール] を選択します。



4. SQL Server の削除

[プログラムと機能] 画面から、「Microsoft SQL Server 2014」を選択し、[アンインストールと変更] ボタンをクリックします。



注意！ 必ず「Microsoft SQL Server 2014」を選択してください。

これ以外を選択した場合は、SQL Server を正常に削除できません。

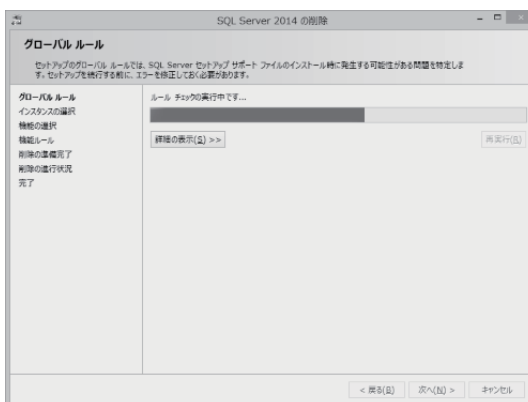
[3] - 4 LANPACK 削除方法

選択画面が開きますので、[削除] を選択します。



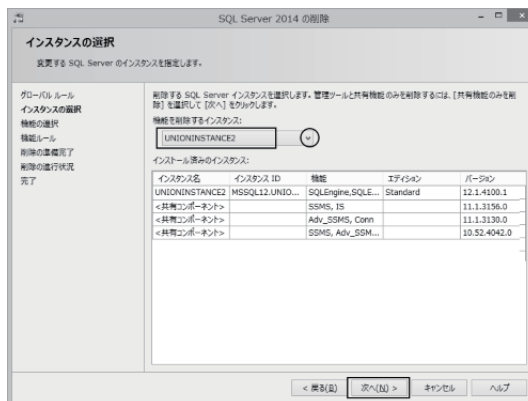
5. セットアップサポートルールの確認

エラーがないかチェックを行います。エラーがない場合、インスタンスの選択画面に進みます。



6. インスタンスの選択

「機能を削除するインスタンス」で「UNIONINSTANCE2」が選択されているのを確認し、[次へ] ボタンをクリックします。

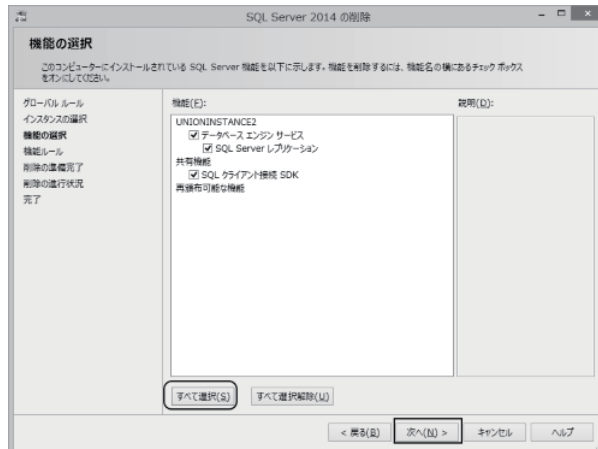


注意！ 「UNIONINSTANCE2」以外のインスタンスは削除しないでください。
他のアプリケーションが起動しなくなるおそれがあります。

[3] - 4 LANPACK 削除方法

7. 機能の選択

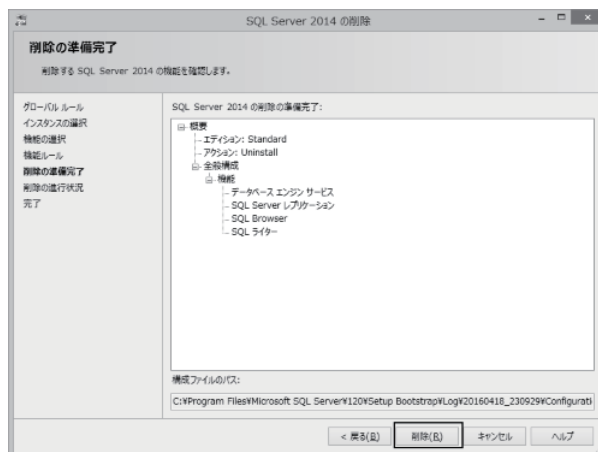
[すべて選択]をクリックし、すべての機能にチェックが付いているのを確認して、[次へ]をクリックします。



注意！ 他のアプリケーションがセットアップされている場合は、[共通機能]内のチェックは外してください。他のアプリケーションが起動しなくなるおそれがあります。

8. 削除の準備完了

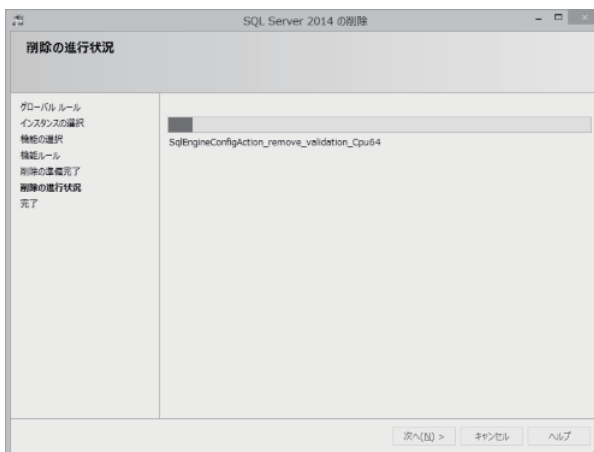
[削除]をクリックします。



[3] - 4 LANPACK 削除方法

9. 削除開始

削除の進行状況が表示されます。終了までそのままお待ちください。



10. 完了

すべての機能の削除が完了したら、完了画面が表示されます。

エラーがないことを確認し、[閉じる] ボタンをクリックします。



以上で、SQL Server の削除が完了しました。

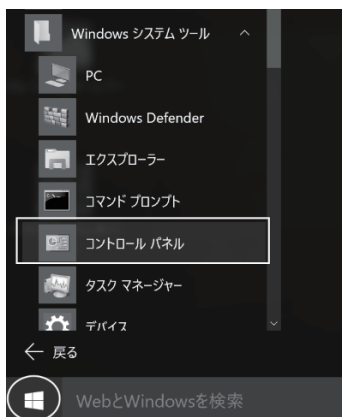
[3] - 4 LANPACK 削除方法

手順4 当システム クライアントプログラムの削除

当システムのクライアントプログラムを削除します。

1. [スタート] 中にある [すべてのプログラム] を表示して「Windows システムツール」の中の [コントロールパネル] をクリックします。

※ Windows 8 の場合は、Winpws のスタート画面で右クリックし、アプリバーの [すべてのアプリ] をクリックし、[コントロールパネル] を選択します。

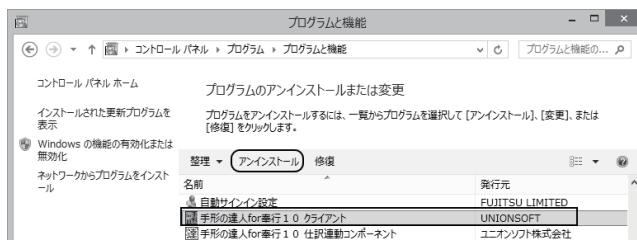


2. [プログラムの機能] をクリックします。



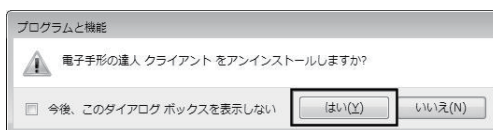
[3] - 4 LANPACK 削除方法

3. 電子債権の達人クライアントの削除を行います。

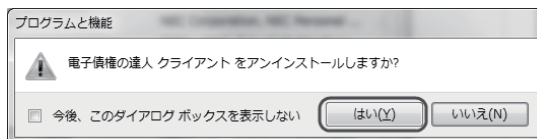


「電子債権の達人クライアント」を選択し、[アンインストール] ボタンをクリックします。

4. 確認メッセージが表示されます。[はい] ボタンをクリックします。



5. 削除を開始します。



削除が終了したら、[プログラムと機能] 画面に戻ります。

ツール他の著作権表示

●登録商標・商標について

- * Microsoft、Windows、Windows Vista、SQL Server、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本及びその他の国における登録商標です。
- * インテル、Pentium、インテル Core は、米国及びその他の国における、Intel Corporation またはその子会社の登録商標または商標です
- * 電子手形の達人は、ユニオンソフト株式会社の登録商標です。
- * その他記載されている会社及び製品名は、各社の登録商標または商標です。



電子債権の達人 ユーザーズガイド セットアップ編

— 禁無断転載 —

平成 28 年 4 月 15 日 第 4 版発行

著者・発行所

ユニオンソフト株式会社

〒 851-8154 長崎市住吉町 3 番 8 号武生ビル 2F

TEL 050-2018-2788 FAX 095-813-0035



本書に関する著作権の全種はユニオンソフト株式会社が所有します。